基 礎 分 野

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
論理学	講義 演習	1単位	30時間	1年後期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

対象である人間について理解していくための根幹となる部分である。看護師としての幅広い教養を身につけることによって、人間理解の視野を広げ、患者をより深く尊重し、その心の動きにも目を向けることができることを目指している。そのため科学的なものの見方や捉え方を学び、看護の共通概念を柱に立てながら、その上に専門分野を積み重ねて学んでいけるようにする。学習進度は学生の成長や体験にそって段階的に教授していく。

到達目標

論理的な思考の形成及び法則を学び、読解力を深め、文章で表現できる能力を養う。

事前学習・事後学習

事前学習：次時の学習内容について調べ学習を行う。
事後学習：授業後の振り返り学習を行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			◎			○

回数	単元	内容	担当教員
1	論理学とは	論理学とは何か 推論と推測の違い	非常勤講師
2	ロンリの力	三段論法について、文章要約力 文章力テスト1	非常勤講師
3	ロンリの力	誤った前提　危険な飛躍について 文章力テスト2	非常勤講師
4	ロンリの力	逆さまのロンリについて 文章力テスト3	非常勤講師
5	ロンリの力	接続表現　ことばをつなぐ 文章力テスト4	非常勤講師
6	推論と推測	論理的であること　非論理的であること 推測・推論の違い	非常勤講師
7	文章要約	文章要約の模範解答と要約のポイント 三段論法等の小テスト	非常勤講師
8	文章要約	文章要約の模範解答と要約のポイント 事実と意見　エビデンス説明	非常勤講師
9	文章要約	文章要約の模範解答と要約のポイント キーワードを探す、5W1H及び論証問題	非常勤講師
10	演繹的推論	演繹的推論　論証問題	非常勤講師
11	演繹的推論	演繹的推論 小テスト	非常勤講師
12	否定の論理	否定の論理　ゼンメルワイスの仮設形成	非常勤講師
13	類似法	類似法　合意形成　文章要約	非常勤講師
14	資料分析	資料分析（帰納）学習内容まとめ	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	非常勤講師

評価	客観式試験（100点）
テキスト	
参考図書等	ロンリのちから　（NHK『ロンリのちから』制作班著）
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
情報リテラシー	講義 演習	1単位	30時間	1年前期	非常勤講師・専任教員
実務経験のある教員による科目					

授業概要

社会の情報化が急速に進む中、医療におけるICT（Information and Communication Technology）活用はますます加速している。本科目ではコンピュータの基本的操作を学び、情報を管理するための基本的な文書処理や、数値処理の仕方を修得するとともに情報を利用する場合の留意すべきことも学修する。さらに医療者としてインターネットや、ソーシャルメディアの特徴をよく知り、リスクを回避しながら賢く活用できるようになることを目指す。

到達目標

1. コンピュータの基本操作（文字入力）を学びワードで文書が作成できる。
2. コンピュータを使用して図表作成や基本的な数値処理の仕方が習得できるができる。
3. PowerPoint資料作成することができる。
4. 医療情報のリテラシーについて説明できる。
5. インターネットや、ソーシャルメディアの特徴を知り、健康医療情報活用することができる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習し、資料を調べて授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
					◎	

回数	単元	内容	担当教員
1	情報に関するモラル 文章入力とファイル管理	ガイダンス 情報リテラシーとは、情報セキュリティとは、 情報に関するモラル　タイピング　ファンクションキーの使い方	非常勤講師
2	文字入力とファイル管理	表の作成　表示形式	非常勤講師
3	表の作成　表示形式	文書の作成　編集	非常勤講師
4	図形とイラストの挿入	図形の作成	非常勤講師
5	集計表の作成	Excel基礎　数式の作成	非常勤講師
6	関数を使った表計算1	SUM　AVG　MAX　MIN関数	非常勤講師
7	データとグラフ	グラフ作成　DATEDIF VLOOKUP	非常勤講師
8	プレゼンテーションの作成	PowerPoint資料作成	非常勤講師
9	プレゼンテーション①	作成したPWの発表①	非常勤講師
10	プレゼンテーション②	作成したPWの発表②	非常勤講師
11	医療情報システム概論	医療情報システム　電子カルテシステム 事例1を通して考える	専任教員
12	医療情報システム概論	医療情報システム　電子カルテシステム 事例2を通して考える	非常勤講師
13	医療情報リテラシー	医療従事者に求められる情報リテラシー 情報倫理　OECD8原則　患者の権利に関するWMAリスボン宣言／世界医師会	非常勤講師
14	医療情報リテラシー	医療従事者に求められる情報リテラシー 事例3を通して考える	非常勤講師
15	電子カルテシステム	電子カルテ内容の実際	非常勤講師

評価	客観式試験（非常勤講師：100点）
テキスト	系統看護学講座　別巻　情報看護学　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
心理学	講義 演習	1単位	30時間	1年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

人間には様々な側面があるが、その一つである心理的側面は外からは直接見ることはできない。しかし身体の行動とは密接な関係があり、他者とのコ ミュニケーションを通して共感したり葛藤がおきたりする。本科目では人間の心理や行動の基礎にある原理を学ぶことで、心理学の面白さを感じ、人間理解の方法について学修する。

到達目標

1. 看護における人間の理解は、心とからだのどちらも欠くことができないものだと理解できる。
2. 認知（高次の心的活動）と記憶、コミュニケーションによる認知過程について理解できる。
3. 目標を実現するための行動過程（動機づけ）、葛藤とフラストレーション、経験に応じた行動変容（学習）について理解できる。
4. 発達段階と発達課題、それに伴う心理社会的様式について理解できる。
5. 一人一人の個性を表すパーソナリティについて理解できる。
6. 対人認知・対人関係から生じる心理・行動傾向について理解できる。
7. ストレスとコーピング、適応のメカニズム、カウンセリングについて理解できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎		○			

回数	単元	内容	担当教員
1	心理学とは	ガイダンス　心理学成り立ちの歴史	非常勤講師
2	認知からの人間理解①	感覚・知覚の心理学	非常勤講師
3	認知からの人間理解②	記憶の仕組み	非常勤講師
4	認知からの人間理解③	言語の獲得とコミュニケーション	非常勤講師
5	行動からの人間理解①	欲求と動機づけ、葛藤、適応	非常勤講師
6	行動からの人間理解②	行動の学習	非常勤講師
7	発達からの人間理解①	胎児～乳児の発達	非常勤講師
8	発達からの人間理解②	幼児～老年期の発達	非常勤講師
9	パーソナリティからの人間理解①	パーソナリティの類型と構造	非常勤講師
10	パーソナリティからの人間理解②	知能の構造と検査	非常勤講師
11	人間関係からの人間理解	他者の理解と社会からの影響	非常勤講師
12	心理臨床からの人間関係①	ストレス心理学	非常勤講師
13	心理臨床からの人間関係②	感情の成り立ちと働き	非常勤講師
14	心理臨床からの人間関係③	心理臨床からの人間関係	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	非常勤講師

評価	客観式試験（100点）のほか、レポートや授業への参加態度などを総合的に判断して評価する。
テキスト	系統看護学講座　基礎分野　心理学　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
教育学	講義	1単位	15時間	1年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

人間形成における教育の意義と人間存在の普遍性と異質性を学ぶことで、看護の実践においても患者の多様な生活環境や個性を理解し、良好な関係の構築に寄与することを期待する。

到達目標

1. 教育とは何か自分の意見を述べることができる。
2. 近代学校制度について説明できる。
3. 教育における学校の機能について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：各課題について調べて授業に参加する。
事後学習：テーマに沿って復習する。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						◎

回数	単元	内容	担当教員
1	教育学とは	オリエンテーション 教育の原理	非常勤講師
2	子供の誕生	子供の誕生 「子ども」から連想されるものワークシート	非常勤講師
3	教育と人権	教育と人権	非常勤講師
4	近代学校制度	近代学校制度	非常勤講師
5	学校の機能	学校の機能	非常勤講師
6	社会教育と家庭教育	社会教育・家庭教育と学校教育の違い	非常勤講師
7	看護と教育	ケアと教育、教育と看護の相違点・共通点	非常勤講師
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（80点）、課題レポート（20点）
テキスト	
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
人間関係論	講義 演習	1単位	30時間	1年前期	非常勤講師

実務経験のある教員による科目	

授業概要

人間関係を構成するのは自己理解と他者理解が必要である。自己をどのように理解し意識しているのか、また他者をどのようにとらえているかを知り、他 者との関係形成について学修する。関係を理解するうえでコミュニケーションは不可欠である。コミュニケーションの特徴や機能について理解したうえで、個人や集団など様々なコミュニケーションについて考える。

到達目標

1. 人間関係の概要について説明できる。
2. 人間関係を構築していくためには自己理解と他者理解が必要なことを説明できる。
3. 対人関係の成立とその意地について説明できる。
4. コミュニケーションとは何か説明できる。
5. コーチング、アサーティブコミュニケーションについて説明できる。
6. 援助的人間関係について自分の意見を述べることができる

事前学習・事後学習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む。
事後学習：当日のテーマに沿って授業の振り返りを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎	○				

回数	単元	内容	担当教員
1	人間関係とは①	ガイダンス 人間関係とは、関係的存在としての人間	非常勤講師
2	人間関係とは②	人間関係のはじまり、人間関係の発達	非常勤講師
3	自己理解と他者理解	自己認知、対人認知	非常勤講師
4	対人関係①	対人関係の成立、対人関係の維持と葛藤、対人葛藤	非常勤講師
5	対人関係②	社会的役割、態度と対人行動	非常勤講師
6	対人関係③	人間関係の歪み	非常勤講師
7	コミュニケーション①	コミュニケーションとは	非常勤講師
8	コミュニケーション②	様々な場面のコミュニケーション	非常勤講師
9	コーチング	コーチングの理論とスキル、コーチングの定義 コーチングの効果と限界、コーチングスキル	非常勤講師
10	アサーティブコミュニケーション	アサーションの理論とスキル、アサーティブコミュニケーションとは	非常勤講師
11	保健医療チームの人間関係	医療におけるチームとは、チームワークとは、チームにおけるコミュニケーションエラー	非常勤講師
12	援助的人間関係①	援助的人間関係の構築	非常勤講師
13	援助的人間関係②	援助的人間関係の具体例を考える	非常勤講師
14	地域をつくる人間関係	ソーシャルサポートとは、ノーマライゼーション	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	非常勤講師

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　基礎分野　人間関係論　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
倫理学	講義 演習	1単位	15時間	1年後期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

人が生きることのなかでの価値観について考えるとともに、看護職において適切な判断ができるための基本となる知識を学修する。

到達目標

倫理的問題を含む医療上の事柄について、一般に採用されているあるいは専門家に支持されている対処方法、およびその対処方法が取られる理由を説明することができる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎	○				

回数	単元	内容	担当教員
1	インフォームド・コンセント	医療のなかで新しく確立された最も重要な価値である「自己決定権の尊重」について学ぶ。	非常勤講師
2	ターミナル・ケア	今日「人生の最終段階の医療」といわれる領域について、その先駆者キューブラ・ロスからその意味を学ぶ。	非常勤講師
3	安楽死と尊厳死	安楽死と尊厳死が日本の現行法で容認されるための条件を確認し、特に本人の意思尊重の扱い方を学ぶ。	非常勤講師
4	臓器移植と脳死	臓器移植にかかわるなかで、人の死が脳死判定によって決められることの意味を学ぶ。	非常勤講師
5	出生前診断と人工妊娠中絶	人工妊娠中絶のうち、出生前診断による「選択的」と呼ばれる中絶について学ぶ。	非常勤講師
6	生殖補助医療	認められうる範囲、そして実施されて初めて明らかになった諸問題を学ぶ。	非常勤講師
7	医療資源の配分/ 看護師の倫理	医療倫理における4つの原理のうち、正義(公正)にかかわる「医療資源の配分」について学ぶ。また、看護師の職業倫理から特に守秘義務の意味について学ぶ。	非常勤講師
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	はじめて出会う生命倫理 （有斐閣アルマ）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
法学	講義 演習	1単位	15時間	1年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

人間の健康や生活は憲法によって保障されている。生活にかかわる人間の法的保護や基本的人権及び義務について学び、人々の権利を尊重する 態度を養う。

到達目標

1. 法学の意義について説明できる。
2. 家族法の概要と今日的課題について自分の意見を述べることができる。
3. 労働法と今日的課題について自分の意見を述べることができる。
4. 健保における基本的人権について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎	○				○

回数	単元	内容	担当教員
1	法学の意義	科学及び学問の基礎、法学の意義 法学論、私法概論	非常勤講師
2	民法総則	民法総則　物権法　債権法	非常勤講師
3	家族法	民法（家族法）	非常勤講師
4	消費者法　労働法 公法概論	消費者法　労働法　公法概論	非常勤講師
5	刑事法について	刑事法　法的責任論	非常勤講師
6	憲法について	憲法　情報法	非常勤講師
7	外国法　他	外国法　国際法　医療関係法規	非常勤講師
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	プレステップ法学〈第5版〉（弘文堂）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
社会学	講義 演習	1単位	15時間	1年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

少子高齢社会、人口減少社会、情報化社会、無縁社会など我々が暮らしている地域社会に関する諸問題に対して検討し、現状を認識し再度見直すことによって、我々が生きる現代社会の諸問題についての幅広い考え方を身につけ、今後の社会について自らの視点をもって考えることができるように学修する。

到達目標

1. 社会学の概要を説明できる。
2. 近代社会の人口動態がもたらす問題を説明できる。
3. 社会の中の最小集団である家族についてその変容と課題について説明できる。
4. 現代社会の課題や諸問題について自分の意見を述べることができる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む。
事後学習：当日のテーマに沿って授業の振り返りを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎	○		○	

回数	単元	内容	担当教員
1	社会学とは	ガイダンス　社会学とは何か	非常勤講師
2	近現代社会①	近代社会と社会集団、家族、個人、近代社会と地位、役割について グローバル化とそれらが社会にもたらす影響	非常勤講師
3	近現代社会②	人口変動と高齢化、人口減少がもたらすもの 人口動向:流動型社会と限界集落	非常勤講師
4	近現代社会③	豊かな社会とは(公害から考える) 地球環境問題(温暖化)	非常勤講師
5	近現代社会④	近代家族の誕生とその変容 家族の形成と家族周期の変化	非常勤講師
6	近現代社会⑤	社会格差と平等、社会階層、ジェンダー	非常勤講師
7	近現代社会⑥	近代社会と病、情報化社会、無縁社会、 社会孤立・孤独死	非常勤講師
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験(100点)
テキスト	
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
文学	講義 演習	1単位	30時間	1年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

文学作品には書かれた時代や文化、作者の思いが色濃く反映されている。作品を読むことで訴えている内容について考え、感性を高め、また、発表や意見交換を通して、他者の受け止め方を尊重することでさらに深く理解したり考えたりできるように学修する。

到達目標

文学作品からそれが書かれた背景や、文化、時代について理解できる。
「はなちゃんのみそ汁」から、作品が生まれた背景や家族の思いについて自分の意見を述べることができる。
「あなたの声がききたい」から、障がいと人権について自分の意見を述べることができる。
「こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話」から、なぜ人は支えあうのか自分の意見を述べることができる。
「1リットルの涙」から、人を支える医療について自分の意見を述べることができる。
「ツレがうつになりまして。」から、病と共に生活し、地域で暮らすことについて自分の意見を述べることができる。
「博士の愛した数式」から、人間関係や認知症がある人への対応について自分の意見を述べることができる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当作品を読んで授業に臨む。
事後学習：授業を振り返りまとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎			

回数	単元	内容	担当教員
1	文学とは	授業ガイダンス 文化的産物としての文学、文学作品を鑑賞するとは	非常勤講師
2	文学作品と作者の歴史的背景	作品が書かれた時代背景 作者の生活と作品の関係について	非常勤講師
3	作品鑑賞①	「はなちゃんのみそ汁」を読んで読後感を発表	非常勤講師
4	GW	作品の登場人物の思いや背景、家族について(GW)	非常勤講師
5	作品鑑賞②	「あなたの声がききたい」を読んで読後感を発表	非常勤講師
6	GW	作品の登場人物の思いや背景、家族や人権・倫理について(GW)	非常勤講師
7	作品鑑賞③	「こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話」を読んで読後感を発表	非常勤講師
8	GW	なぜ人は支えあうのかを作品を通して考える(GW)	非常勤講師
9	作品鑑賞④	「1リットルの涙」を読んで読後感を発表	非常勤講師
10	GW	生きる希望やその人を支える医療について(GW)	非常勤講師
11	作品鑑賞⑤	「ツレがうつになりまして。」を読んで読後感を発表	非常勤講師
12	GW	長い闘病生活を支える夫婦が現実を受け止めながらどのように変化していったのか、日本人の罹患率1位の健康障害と現代社会との関係や地域で暮らすことについて(GW)	非常勤講師
13	作品鑑賞⑥	「博士の愛した数式」を読んで読後感を発表	非常勤講師
14	GW	認知症の人への対応について、人間関係について(GW)	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	非常勤講師

評価	課題レポートによる(100点)
テキスト	はなちゃんのみそ汁 （講談社)、あなたの声がききたい （株式会社佼成出版社)、こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話 （文春文庫)、 1リットルの涙 （幻冬舎文庫)、ツレがうつになりまして。 （幻冬舎文庫)、博士の愛した数式 （新潮文庫)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
文化人類学	講義 演習	1単位	15時間	1年後期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

文化人類学の基礎的な知識を学ぶと同時に、その知識を通して日常の文化現象を考察することができるようになる。また文化の多様性を理解し、他者を理解する姿勢をもつ。

到達目標

1. 文化の多様性を理会することを通して、他者理解の姿勢をもつことができる。
2. 家族のとらえ方、親族について説明できる。
3. 病気や死のとらえ方の多様性について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：各課題について調べて授業に参加する。
事後学習：テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		◎		

回数	単元	内容	担当教員
1	文化人類学とは	文化人類学で学ぶこと	非常勤講師
2	家族と親族	家族のなりたちと家族をこえたつながり	非常勤講師
3	人生と通過儀礼	大人になること	非常勤講師
4	宗教とは	宗教を考える　宗教と世界観	非常勤講師
5	文化と病気	文化と病気/健康―身体・出産・治療	非常勤講師
6	人間と死	人は死をどう考えてきたか 「死」と「文化」	非常勤講師
7	文化人類学とフィールドワーク	文化人類学とフィールドワーク 現地から考える/現地で考える	非常勤講師
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　基礎分野　文化人類学 （医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
生活科学	講義 演習	1単位	15時間	1年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

人間は社会の中の一員として存在し、生活を営む存在である。人間生活の基盤としての家庭生活、よりよい生活環境のあり方を科学的にとらえ、看護につなげられる能力を身につける。

到達目標

1. 人間生活とは何かを、生活構造の概念、生活水準、生活関係、生活時間、生活空間、生活行為などを通して理解する。
2. ウエルネス5領域を理解し、その人らしい健康な生活を送る意味を考えることができる。

事前学習・事後学習

事前学習：各課題について調べて授業に参加する。
事後学習：テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎		○		

回数	単元	内容	担当教員
1	生活環境とは	生活とは 生活環境と個人のアイデンティティ相互関係、生活主体としての「個」のありかた	非常勤講師
2	生活の社会化	家族が現代社会で抱える問題 生活の社会化の影響	非常勤講師
3	健康な生活	身体・精神・社会の三つの観点から健康な生活を考える 望ましい住環境について(GW)	非常勤講師
4	環境問題 生活習慣	科学技術の発展に伴って生じた環境問題と環境に依拠する「生活習慣」と健康の関係	非常勤講師
5	若年世代と高齢世代の共同性	「高齢者の暮らし」に焦点を当て、若年世代と高齢世代の共同性のあり方を検討	非常勤講師
6	高齢者・障碍者の自立	「地域」の観点から高齢者・障がい者の自立に関わる共同	非常勤講師
7	ウエルネスとは何か ライフプランニング	人生のミッションとウエルネス 善く生きるとは	非常勤講師
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（80点）、課題レポート（20点）
テキスト	
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
地域の暮らし	講義 演習	1単位	30時間	1年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

地域の人々の健康の維持・増進を支援するために地域はどのような人々で構成され、どのような環境の中で生活をしているのか、人々の生活実態と地域の健康問題との関連を学修する。具体的には、近隣校区の人口統計など既存資料から分析し、地区の概況をとらえ、地区踏査を行う。
さらに、地域の住民組織の代表者にインタビューを行い、住民組織の活動を知るとともに住民組織活動から見える住民の健康生活の特徴や課題について把握できるように学修する。地域の健康課題を捉える視点や、地域の人々の健康の維持・増進、QOLの向上について学ぶ。

到達目標

1. 地域をとらえるための情報の要点について説明できる。
2. 地域の人口構成や地理的条件や歴史や文化などの生活条件の把握、健康指標の分析ができる。
3. 地区踏査を通して地域の雰囲気や地理的状況や暮らしぶりを直接観察し、情報を集め説明できる。
4. インタビューを通して地域住民の健康意識や保健行動の特徴、住民組織とその活動について説明できる。
5. 地域の健康課題と健康の維持・増進について自分の意見を述べることができる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		◎		

回数	単元	内容	担当教員
1	地域プロジェクトとは	ガイダンス ポートフォリオの基本 福岡県の歴史と文化　水巻町の歴史と文化	非常勤講師
2	地域のとらえ方	地域診断における情報収集の方法 地図情報からみた地域の特徴	非常勤講師
3	地域のとらえ方	校区データをもとに担当する地域の人口、世帯数、死亡率、健康受診率などを整理(GW)	非常勤講師
4	資料からみる地域特性②	校区データをもとに担当する地域の人口世帯数、死亡率、健康受診率などを分析(GW)	非常勤講師
5	資料からみる地域特性③	担当地域についてのプレゼンテーション	非常勤講師
6	地区調査①	地区視診ガイドラインの説明	非常勤講師
7	地区調査②	担当する地域の地理的特徴や社会資源状況等を調べ、地区調査の計画立案（共有化）	非常勤講師
8	地区調査③	担当地域でのフィールドワークを実施	非常勤講師
9	地区調査④		
10	地区調査⑤	作成した地区マップを用いながら踏査地区の特徴についてプレゼンテーション	非常勤講師
11	地域をつくる人や組織	地域の住民組織や育児など共通の問題をもつグループ、ボランティア組織等の説明	非常勤講師
12	地域をつくる人や組織	インタビュー技法、地域の住民組織へのインタビュー内容の計画書を作成	非常勤講師
13	地域をつくる人や組織	地域の保健活動推進員、民生委員、生活支援コーディネーター、主任児童委員、 自治会、シニアクラブの方へインタビュー	非常勤講師
14	地域をつくる人や組織	地域住民のインタビュー結果について発表	非常勤講師
15	地域の健康上の課題と 解決方法について	レポート作成	非常勤講師

評価	プレゼンテーション（50点）、レポート課題（50点）
テキスト	
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
国際関係論	講義 演習	1単位	15時間	1年後期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

グローバル化が急速に進行している現在、世界各地で発生している問題は1国のみの問題ではなく、複数の国々や組織などの関係の上で成り立っている。現在では、他国や他地域で起きた様々な問題は、自分の身近なところに直結し生活に影響している。こうした状況を踏まえて、本科目では、具体的な国際問題を検討することを通して世界で起きている問題や日本の果たす役割について学修する。

到達目標

1. 国際社会の仕組みや国際機関の役割を説明できる。
2. 世界が抱える紛争問題について説明できる。
3. 世界が抱える環境・エネルギー問題について説明できる。
4. 世界が抱える貧困と格差について説明できる。
5. 国際的な人の移動について説明できる。
6. 世界の抱える問題と日本が抱える問題の相互関連について説明できる。
7. 問題解決の取組みにおける日本の役割について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む。
事後学習：当日のテーマに沿って授業の振り返りを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
				◎	○	

回数	単元	内容	担当教員
1	国際関係論概要	授業ガイダンス 国際関係論とは？　国際社会の成立	非常勤講師
2	国際社会の仕組みとイメージ	外交、国際法、勢力均衡、現実主義、自由主義	非常勤講師
3	国際協力とODA	国際協力、国際機関、国連、WHO、日本のODA	非常勤講師
4	世界が抱える紛争問題	戦争、内戦、テロ、核、平和構築、日本の安全保障	非常勤講師
5	世界が抱える環境問題	気候変動、温暖化、生態系、水資源、エネルギー、プラごみ	非常勤講師
6	国際的な人の移動	移民、難民、日本の外国人労働者、技能実習生	非常勤講師
7	世界が抱える貧困と格差	グローバル化、貧困と格差、日本の貧困	非常勤講師
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	なし
参考図書等	小田桐確ほか（編）『ワークブック国際関係論：身近な視点から世界を学ぶ』 ナカニシヤ出版、2018年
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
医療英会話	講義 演習	1単位	30時間	1年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

英語の苦手意識を払拭し、外国語を学ぶ楽しさを実感できるように学ぶ。医療系の学生として、将来看護の現場で役立つ英語力を体得する。わからないことはわからないとはっきり表現し、なおかつ落ち着いて問題解決に挑戦できる英語表現のスキルを学修する。

到達目標

1. 英語で自己紹介ができる。
2. 身体各部位や各診療科について英語でリーディング・ライティングができる。
3. 症状について英語でリーディング・ライティングができる。
4. 症状について問いかけができる。
5. 検査時の簡単な説明ができる。

事前学習・事後学習

事前学習：各課題について調べて授業に参加する。
事後学習：テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
				◎		

回数	単元	内容	担当教員
1	自己紹介	自己紹介、テキストunit1、発音記号母音① 英作文NO.1英文法（一般動詞、Be動詞）	非常勤講師
2	Text unit1、2	発音記号test① 自己紹介 発音記号② 英作文NO.1 Text unit1、2	非常勤講師
3	英作文NO.2	発音記号test② 自己紹介 発音記号③ 英作文NO.2	非常勤講師
4	Text unit3 英文法「現在完了」	発音記号test③ 自己紹介 発音記号④ Text unit3 英文法「現在完了」	非常勤講師
5	Text unit4 診療科名の発音記号	発音記号test④ 自己紹介 発音記号⑤ Text unit4 診療科名の発音記号	非常勤講師
6	Text unit4 unit5 英会話発表	発音記号test⑤ 自己紹介 発音記号⑥ Text unit4 unit5 英会話発表 発音記号の読み方	非常勤講師
7	Text unit5、unit6	発音記号test⑥ 自己紹介 発音記号の読み方NO.3 Text unit5、unit6 英文法 現在完了	非常勤講師
8	Text unit6	自己紹介 発音記号の読み方NO.6（症状） Text unit6 英文法 現在完了 VヴァリNo.3（英作文）	非常勤講師
9	unit7 身体部位 英文法 疑問詞	自己紹介 unit7 身体部位 英文法 疑問詞 発音記号の読み方NO.7	非常勤講師
10	Unit7 Skit発表 unit8	Unit7 Skit発表 unit8 英文法 受動態 unit1～unit4の暗唱分復習	非常勤講師
11	Unit8 Skit発表 unit9	Unit8 Skit発表 unit9 発音記号NO.8 英文法受動態 VヴァリNO.4	非常勤講師
12	Unit9 skit発表	Unit9 skit発表 unit9、VヴァリNO.4 Unit2の小テスト	非常勤講師
13	Unit10検査に関する表現 模擬試験 NO.1	VヴァリNO.4の確認 発音記号NO.9 Unit10検査に関する表現 模擬試験 NO.1	非常勤講師
14	模擬試験	模擬試験 NO.2	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	非常勤講師

評価	客観式試験（100点）
テキスト	クリスティーンのやさしい看護英会話 （医学書院）
参考図書等	
留意事項	

専 門 基 礎 分 野

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
人体の構造と機能Ⅰ	講義	1単位	30時間	1年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

ヒトのからだの構造と機能を知り体系的に理解するため，人体構造を細胞・組織・器官を学ぶ。さらに生体のしくみとその働きについて理解する。また生命現象を理解するための基本的な考え方を修得する。

到達目標

1. 人体構造学とは何かを説明できる。
2. 人体を構成する細胞の構造，それらの集合体である組織や器官の特徴とその構造を説明できる。
3. 骨格系，筋肉系，循環器系，呼吸器系，消化器系，神経系の構造を説明できる。
4. 感覚器の構造とその働きを説明できる。
5. 神経の機能を説明できる。
6. 運動における神経系と筋の役割・収縮機構を説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	人体の構造と機能の基礎	人体の構造と機能総論	非常勤講師
2	細胞と組織	細胞の構造、遺伝子と遺伝情報伝達、組織	非常勤講師
3	神経系①	神経細胞と神経組織	非常勤講師
4	神経系②	中枢神経系の構造と機能：脊髄と中脳、橋、延髄	非常勤講師
5	神経系③	大脳、視床、視床下部、小脳	非常勤講師
6	神経系④	髄膜と脳室、脳脊髄液の循環、伝導路	非常勤講師
7	神経系⑤	覚醒と睡眠、末梢神経系の構造と機能：脊髄神経	非常勤講師
8	神経系⑥	末梢神経系の構造と機能：脳神経、自律神経	非常勤講師
9	運動器①	骨格の構造と機能	非常勤講師
10	運動器②	関節の構造と機能	非常勤講師
11	運動器③	骨格筋の構造と機能	非常勤講師
12	運動器④	骨格筋の収縮機構、収縮の種類と特性	非常勤講師
13	感覚器	体性感覚　視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚、内臓感覚	非常勤講師
14	確認テスト	1回～13回の確認テスト・解答・解説	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 （医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
人体の構造と機能Ⅱ	講義	1単位	30時間	1年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

循環器系、血液、体液とその調節、泌尿器系、呼吸器系についての人体の構造と機能について理解できるようにする。

到達目標

1. 血液の組成およびそれぞれの働きを理解する。
2. 体液の構成と調節について理解できる。
3. 腎・泌尿器の構造と働きについて理解する。
4. 生体内の物質の流通路としての心臓・血管系の構造とその役割を理解する。
5. 血液循環の構造と機能を理解する。
6. 換気・ガス交換・呼吸調節に関わる呼吸器の構造と機能を理解する。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習：該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	泌尿器系①	腎臓の構造と機能	非常勤講師
2	泌尿器系②	尿管、膀胱、尿道の構造と機能	非常勤講師
3	泌尿器系③	排尿、尿の成分と性状	非常勤講師
4	体液	体液量、体液の区分と電解質組成、体液の調節	非常勤講師
5	血液①	血液の組成	非常勤講師
6	血液②	血液の機能、止血機構、血液型	非常勤講師
7	循環器①	血液循環の基礎	非常勤講師
8	循環器②	心臓の構造と機能	非常勤講師
9	循環器③	全身の動脈の構造と機能	非常勤講師
10	循環器④	静脈とリンパ系の構造と機能	非常勤講師
11	呼吸器①	呼吸器総論と上気道の構造と機能	非常勤講師
12	呼吸器②	下気道、肺、胸膜、縦隔の構造と機能	非常勤講師
13	呼吸器③	呼吸のメカニズムと呼吸気量	非常勤講師
14	確認テスト	1回～13回の確認テスト・解答・解説	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔1〕　解剖生理学　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
人体の構造と機能Ⅲ	講義	1単位	30時間	1年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

消化器系、代謝系、体温調節、内分泌系、生殖器についての人体の構造と機能について学ぶ。消化器系では、摂取した食物がどのように消化吸収し、そして利用されるのか、消化器系の構造と機能を学ぶ。生殖器では、人間の生命の誕生に興味をもち、人の生殖機能についての知識を深め、子孫を残す仕組みについて学ぶ。代謝系、体温調節では生体の情報を感知し、発信しながら生体の環境適応を可能にし、恒常性を維持することを学ぶ。内分泌系では、内分泌系の調節や全身の内分泌腺と内分泌細胞、ホルモン分泌の調節について学ぶ。

到達目標

1. 消化器の構造と機能について理解する。
2. 代謝の構造と機能について理解する。
3. 体温調節について理解することができる。
4. 内分泌腺とホルモンの分泌と作用について理解する。
5. 生体防御機構の機能について理解する。
6. 生殖器の構造と機能について理解する。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	代謝系	栄養とエネルギー、物質代謝	非常勤講師
2	消化器系①	口腔、咽頭、食道、嚥下・咀嚼	非常勤講師
3	消化器系②	胃、十二指腸の構造と機能	非常勤講師
4	消化器系③	空腸と回腸の構造と機能、三大栄養素の消化・吸収	非常勤講師
5	消化器系④	結腸、虫垂、直腸の構造と機能、消化管運動と反射	非常勤講師
6	消化器系⑤	膵臓、肝臓・胆道の構造と機能	非常勤講師
7	内分泌①	内分泌腺、内分泌細胞とホルモンの作用機序	非常勤講師
8	内分泌②	視床下部と下垂体	非常勤講師
9	内分泌③	甲状腺、副甲状腺、膵島、副腎、その他の内分泌腺	非常勤講師
10	内分泌④	ホルモン分泌の調節	非常勤講師
11	生殖器系①	女性、男性の生殖器系の構造と機能	非常勤講師
12	生殖器系②	受精と発生、成長と老化による変化	非常勤講師
13	生体防御と体温調節	特異と非特異的生体防御機構、体温とその調節	非常勤講師
14	確認テスト	1回～13回の確認テスト・解答・解説	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔1〕　解剖生理学　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
人体の構造と機能演習	講義 演習	1単位	30時間	1年後期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

人体の構造と機能について既習の知識を確認しながら、人は生活行動（食べる、息をする、出す）を体のどこを使いどのように遂行しているかを学び、探求する。各系統別に分けて考えるのではなく、正常な人間の構造と機能について、看護実践に結び付け理解する。からだの不思議に焦点をあてて知識の整理を行い、調べまとめて発表し共有していくことで、チームで協力することの大切さも学ぶ。

到達目標

1. 皮膚の外側から透視した、内臓の形、位置関係を図示できる。
2. ヒトが生物として生きていくために必要なことは何かを、人の日常生活と関連付けて説明できる。
3. ヒトの生活行動を体がどのように遂行しているのかを理解できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：該当テーマに沿って講義内容をもとに復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	人体の構造と機能演習について	ガイダンス 本科目の概要と進め方、生きているとはどういうことか	専任教員
2	日常生活行動「恒常性維持①」	恒常性維持のための物質の流通（血液、循環器）	専任教員
3	日常生活行動「恒常性維持②」	恒常性維持にための調節機構（神経調節、液性調節）	専任教員
4	日常生活行動「動く①」	「動く」と運動器系の違い	専任教員
5	小テスト	恒常性維持・「動く」についての基礎知識の確認	専任教員
6	日常生活行動「食べる①」	「食べる」と消化器系の違い①	専任教員
7	日常生活行動「食べる②」	「食べる」と消化器系の違い②	専任教員
8	日常生活行動「息をする」	「息をする」と呼吸器系の違い	専任教員
9	日常生活行動「排泄する①」	「排泄する」と腎・泌尿器系の違い	専任教員
10	小テスト	「食べる」「息をする」「排泄する」についての基礎知識の確認	専任教員
11	からだの不思議①	からだの不思議について調べてまとめる①	専任教員
12	からだの不思議②	からだの不思議について調べてまとめる②	専任教員
13	発表①	からだの不思議についての発表①	専任教員
14	発表②	からだの不思議についての発表②	専任教員
15	発表③	からだの不思議についての発表③	専任教員

評価	演習評価（非常勤講師：20点）、小テスト（専任教員：10点、専任教員：10点）、客観式試験（専任教員：20点、専任
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔1〕　解剖生理学　（医学書院）
参考図書等	講義の中で紹介
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
代謝と栄養	講義	1単位	30時間	1年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

「代謝と栄養」では、人体(生物体)の機能を細胞内での物質の変化(代謝)の面から学習し、糖質、脂質、タンパク質の化学と代謝、核酸の化学と代謝、遺伝情報、エネルギー恒常性に関わる調節系について理解できるように学修する。

到達目標

1. 細胞の構造と機能、生体膜の構造と機能について説明できる。
2. 糖質、脂質、タンパク質、核酸、水と無機質、ビタミンと補酵素について説明できる。
3. 血液と尿、ホルモンと生理活性物質について説明できる。
4. 生体内の物質代謝を理解し、その概要を説明できる。
5. 生体における情報の伝達および遺伝情報について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習:該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習:当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	代謝総論	代謝とは 代謝とその制御	非常勤講師
2	生命維持に必要な栄養素の構造と性質①	細胞、糖質、脂質、アミノ酸とたんぱく質	非常勤講師
3	生命維持に必要な栄養素の構造と性質②	核酸とヌクレオチド、ビタミン	非常勤講師
4	酵素	酵素の役割、酵素の性質、酵素の分類、アイソザイム、 臨床診断と酵素	非常勤講師
5	糖質代謝①	糖質代謝の概要、解糖のしくみ、グリコーゲンの合成と分解	非常勤講師
6	糖質代謝②	ペントースリン酸回路を経る代謝、糖新生	非常勤講師
7	糖質代謝③	血糖の調節とホルモン作用	非常勤講師
8	確認テスト	確認テスト(1回～7回)解答・解説	非常勤講師
9	脂質代謝①	脂質代謝の役割、脂質の消化・吸収と貯蔵、脂肪酸の分解 ケトン体の代謝、脂肪酸と脂肪の合成	非常勤講師
10	脂質代謝②	コレステロールの代謝、リン脂質とエコノサイド、血中リポタンパク質	非常勤講師
11	タンパク質とアミノ酸代謝①	タンパク質・アミノ酸の役割と概要、タンパク質の消化と吸収	非常勤講師
12	タンパク質とアミノ酸代謝②	アミノ酸の代謝、ヘムの生合成とビリルビンの代謝	非常勤講師
13	核酸・ヌクレオチドの代謝	ヌクレオチド代謝の役割、ヌクレオチドの合成、分解	非常勤講師
14	確認テスト	確認テスト(9回～12回)解答・解説	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	非常勤講師

評価	
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能［2］ 生化学(医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
病理学	講義	1単位	30時間	1年後期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

既習の人体の構造と機能の知識を基に、病気の原因、病気の発症・進展の過程、炎症とは、腫瘍とはなど学び、それらの病変が人体の組織や臓器に現れた場合の健康障害の成り立ちについて学修する。今求められているのは根拠に基づいた医療（EBM）、根拠に基づいた看護実践（EBN）である。病む人を全人的にとらえながら看護するためには医学の基礎である病理学の知識は必須となります。看護の質を担保できるように学修する。

到達目標

1. 心疾患の病理と臨床症状との関係を説明できる。
2. 炎症とは何か、炎症の代表的症状について説明できる。
3. 免疫系のしくみと働きについて説明できる。
4. 代謝異常について説明できる。
5. 老化と死のメカニズムについて説明できる。
6. 遺伝と遺伝子、先天異常について説明できる。
7. 腫瘍の定義について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所について調べて授業に臨む。
事後学習：該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	病理学とは	病理学とは、病気の原因、生活習慣病について	非常勤講師
2	細胞・組織のその障害	細胞・組織の損傷、再生と修復について	非常勤講師
3	炎症	急性炎症の基本病変について	非常勤講師
4	炎症	慢性炎症の基本病変について	非常勤講師
5	免疫	免疫と免疫不全について	非常勤講師
6	アレルギー	アレルギーの分類と自己免疫疾患について	非常勤講師
7	感染症	感染と感染症、常在菌と日和見感染症	非常勤講師
8	循環障害	浮腫、うっ血、出血、血栓症について	非常勤講師
9	循環障害	塞栓症、虚血と梗塞、側副循環、高血圧症、DIC、ショックについて	非常勤講師
10	代謝異常	脂質代謝異常、タンパク質代謝異常、糖代謝異常、そのほかの代謝異常について	非常勤講師
11	老化と死	細胞組織の加齢性変化、生命の危機について	非常勤講師
12	先天異常と遺伝性疾患	遺伝と遺伝子、先天異常、遺伝子の異常と疾患について	非常勤講師
13	腫瘍	腫瘍の定義と分類、腫瘍の広がりと影響、腫瘍の発生機序、腫瘍の病理診断について	非常勤講師
14	腫瘍	主な臓器損傷の特徴について	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進[1]　病理学　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
健康障害と治療Ⅰ （呼吸器・循環器・血液造血器）	講義	1単位	30時間	1年後期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

既習の呼吸器系・循環器系の構造や機能をふまえ、呼吸器系に特有な健康障害・循環器系に特有な健康障害及び主な症状や治療、検査・処置について学ぶ。呼吸系では喘息・COPD・呼吸不全、肺感染症、肺腫瘍や胸部外傷等、それに伴う人工呼吸器や胸腔ドレナージ、画像診断について学修する。
循環器系では冠動脈疾患・狭心症・心筋梗塞・心不全・心タンポナーゼ等や、心臓カテーテルやペースメーカー、心電図や動脈血酸素分圧について学修する。造血器系では主な疾患（貧血・出血性疾患・血液のがん等）と検査・治療についても学修する。

到達目標

1. 呼吸器系の主な健康障害（喘息・COPD・呼吸不全・肺感染症・肺腫瘍等）のメカニズムについて説明できる。
2. 呼吸器系の疾患に関連する検査（人工呼吸器・胸腔ドレナージ・画像診断等）について説明できる。
3. 循環器系の主な健康障害（冠動脈疾患・狭心症・心筋梗塞・心不全・心タンポナーゼ等）のメカニズムについて説明できる。
4. 循環器系の疾患に関連する検査（心臓カテーテル・ペースメーカー・心電図・脈血酸素分圧等）について説明できる。
5. 血小板減少症や白血病の発症のメカニズムや治療について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習：該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	呼吸器系の健康障害と症状・治療・処置①	1）感染症　2）間質性肺炎	非常勤講師
2	呼吸器系の健康障害と症状・治療・処置②	3）気道疾患　（1）気管支喘息　（2）気管支拡張症　（3）慢性閉塞性肺疾患	非常勤講師
3	呼吸器系の健康障害と症状・治療・処置②	4）肺血栓塞栓症　5）呼吸不全 6)呼吸調節に関する疾患　（1）過換気症候群（2）睡眠時無呼吸症候群	非常勤講師
4	呼吸器系の健康障害と症状・治療・処置④	7）肺腫瘍　8）肺・肺血管の形成異常（1）肺分画症（2）肺動静脈瘻	非常勤講師
5	呼吸器系の健康障害と症状・治療・処置⑤	9）胸膜・縦隔・横隔膜の疾患（1）胸膜の疾患（2）縦郭の疾患（3）横隔膜の疾患 10）肺移植	非常勤講師
6	呼吸器系の健康障害と症状・治療・処置⑥	11）胸部外傷　（1）肋骨骨折（2）横隔膜破裂（3）肺損傷（4）気管・気管支損傷	非常勤講師
7	循環器系の健康障害と症状・治療・処置①	1）虚血性心疾患	非常勤講師
8	循環器系の健康障害と症状・治療・処置②	2）心不全　3）血圧異常	非常勤講師
9	循環器系の健康障害と症状・治療・処置③	4）肺血栓塞栓症不整脈　5）弁膜症　6）心膜炎	非常勤講師
10	循環器系の健康障害と症状・治療・処置④	4）肺血栓塞栓症不整脈　5）弁膜症　6）心膜炎	非常勤講師
11	循環器系の健康障害と症状・治療・処置⑤	10）動脈系疾患　11）静脈系疾患　12）リンパ系疾患　13）高脂血症	非常勤講師
12	血液・造血器系の健康障害と症状・治療・処置①	1）赤血球系の疾患　2）白血球系の疾患	非常勤講師
13	血液・造血器系の健康障害と症状・治療・処置②	3）リンパ網内系疾患　4）異常タンパク血症	非常勤講師
14	血液・造血器系の健康障害と症状・治療・処置③	5）出血性疾患 アレルギー性紫斑病、特発性血小板減少性紫斑病、血栓性血小板減少性紫斑病、血友病	非常勤講師
15	血液・造血器系の健康障害と症状・治療・処置③	血小板機能異常症、ヘパリン起因性血小板減少症、フォーンヴィルブランド病 播種性血管内凝固症候群	非常勤講師

評 価	客観式試験(専任教員:40点、吉田:40点、熊野:20点)
テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔2〕 呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔3〕 循環器 (医学書院) 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔4〕 血液・造血器 (医学書院)
参考図書等	
留 意 事 項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
健康障害と治療Ⅱ （消化器・腎泌尿器・生殖器）	講義	1単位	30時間	1年後期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

既習の人体の構造と機能をふまえ、消化器系・腎泌尿器系・生殖器系の特有の疾患・症状の診断・治療・検査・処置について学ぶ。消化器系の主な疾患（がん・炎症・潰瘍性疾患・イレウス・肝硬変等）や検査（内視鏡検査・腹部超音波・肝生検・放射線検査等）治療について、腎・泌尿器・生殖器系の健康障害の発症のメカニズム・治療・検査・処置について学修する。

到達目標

1. 上部消化管・下部消化管の主な疾患の発症のメカニズムや治療について説明できる。
2. 肝臓・胆道系・膵臓の主な疾患の発症のメカニズムや治療について説明できる。
3. 腎及び泌尿器系の主な健康障害と治療・検査について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習：該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	消化器系の健康障害と症状 ・治療・処置①	1）食道疾患（1）食道がん（2）食道アカラシア（3）逆流性食道炎	非常勤講師
2	消化器系の健康障害と症状 ・治療・処置②	2）胃・十二指腸疾患（1）胃炎（2）胃・十二指腸潰瘍（3）胃がん	非常勤講師
3	消化器系の健康障害と症状 ・治療・処置③④	3）腸及び腹膜疾患（1）腸炎（2）腹膜炎（3）虫垂炎（4）ヘルニア（5）イレウス 3）腸及び腹膜疾患（6）腸内寄生虫疾患（7）消化管憩室（8）腸管ポリープ （9）結腸癌、直腸癌（10）肛門疾患	非常勤講師
4	消化器系の健康障害と症状 ・治療・処置⑤	4）肝臓・胆嚢の疾患（1）肝炎（2）肝硬変症（3）門脈圧亢進症（4）肝臓がん（5）肝外傷 （6）胆石症（7）胆嚢炎および胆管炎（8）胆管がん（9）胆嚢がん（10）胆嚢ポリープ （11）肝寄生虫疾患	非常勤講師
5	消化器系の健康障害と症状 ・治療・処置⑥	5）膵臓の疾患（1）膵炎（2）急性腹症（3）腹部外傷	非常勤講師
6	模擬テスト	消化器疾患	非常勤講師
7	腎泌尿器系の健康障害と症状 ・治療・処置①	1）腎不全（1）急性腎不全（2）慢性腎不全	非常勤講師
8	腎泌尿器系の健康障害と症状 ・治療・処置②	2）原発性糸球体腎炎（1）糸球体腎炎（2）ネフローゼ症候群	非常勤講師
9	腎泌尿器系の健康障害と症状 ・治療・処置③	3）全身性疾患による腎障害4）尿細管間質性腎炎 5）腎血管性病変（1）腎硬化症（2）腎血管性高血圧症	非常勤講師
10	腎泌尿器系の健康障害と症状 ・治療・処置④	6）尿路損傷および異物7）尿路結石症8）尿路・性器の腫瘍 9）発生・発育の異常10）男性不妊症、勃起障害、男性性器疾患	非常勤講師
11	生殖器系の健康障害と症状 ・治療・処置①	生殖器の構造と機能、疾患の理解：病態の生理と診断・検査・治療・処置 女性生殖器疾患：子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫、子宮体癌、卵巣癌、月経異常、 更年期障害	非常勤講師
12	生殖器系の健康障害と症状 ・治療・処置②	疾患の理解：病態の生理と診断・検査・治療・処置　乳腺疾患：乳腺炎、乳腺症、乳癌	非常勤講師
13	生殖器系の健康障害と症状 ・治療・処置③	疾患の理解：病態の生理と診断・検査・治療・処置 男性生殖器の疾患：前立腺炎、前立腺肥大、前立腺癌	非常勤講師
14	模擬テスト	腎・泌尿器・生殖器疾患	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	非常勤講師

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔5〕 消化器 （医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔8〕 腎・泌尿器 （医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔9〕 女性生殖器 （医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
健康障害と治療Ⅲ (脳・神経・運動器)	講義	1単位	30時間	1年後期	非常勤講師 ・ 専任教員
実務経験のある教員による科目					

授業概要

神経機能障害として脳血管障害や認知症・高次脳機能障害等の発症のメカニズム・治療・検査について、運動機能障害として骨粗鬆症、骨肉腫、変形性関節症、筋ジストロフィー、重傷筋無力症等の発症のメカニズム・治療・検査について学修する。

到達目標

1. 神経機能障害として脳血管障害や認知症・高次脳機能障害等の発症のメカニズム・治療・検査について説明できる。
2. 運動機能障害として骨粗鬆症、骨肉腫、変形性関節症、筋ジストロフィー、重傷筋無力症等の発症のメカニズム・治療・検査ついて説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習:該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習:該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	脳神経疾患総論	脳神経疾患総論	非常勤講師
2	脳神経疾患の症状・治療・処置①	1)脳疾患①	非常勤講師
3	脳神経疾患の症状・治療・処置②	1)脳疾患②	非常勤講師
4	脳神経疾患の症状・治療・処置③	2)脊髄疾患3)末梢神経疾患4)末梢性顔面神経麻痺5)片側顔面けいれん	非常勤講師
5	脳神経疾患の症状・治療・処置④	6)神経・筋疾患 (1)重症筋無力症(2)進行性筋ジストロフィー (3)筋緊張性ジストロフィー(4)周期性四肢麻痺(5)筋萎縮性側索硬化症 (6)多発性筋炎・皮膚筋炎 7)脳・神経系の感染症 (1)脳炎(2)髄膜炎(3)神経系感染症	非常勤講師
6	脳神経疾患の症状・治療・処置⑤	8)中毒 (1)一酸化炭素中毒(2)水銀中毒(3)鉛中毒(4)アルコール中毒 (5)睡眠薬中毒(6)スモン(7)ステロイドミオパチー6)認知症9)てんかん 10)認知症	非常勤講師
7	模擬テスト	脳神経系の健康障害と症状・治療・処置 模擬テスト	専任教員
8	運動器疾患の症状・治療・処置①	1)先天性疾患 (1)筋性斜頸(2)股関節脱臼(3)内反足	非常勤講師
9	運動器疾患の症状・治療・処置②	2)骨折 3)脱臼 4)捻挫および打撲	非常勤講師
10	運動器疾患の症状・治療・処置③	1)骨・関節の炎症性疾患 (1)骨膜炎(2)化膿性関節炎(3)骨・関節結核 (4)変形性関節症(5)関節リウマチ(6)痛風(7)強直性脊椎炎 6)骨腫瘍	非常勤講師
11	運動器疾患の症状・治療・処置④	7)骨系統疾患 8)代謝性骨疾患 9)筋および腱の疾患10)麻痺性折檻 11)上肢・下肢の疾患	非常勤講師
12	運動器疾患の症状・治療・処置⑤	検査:画像診断、MRI、関節造営、骨密度測定、関節鏡検査等	専任教員
13	運動器疾患の症状・治療・処置⑥	治療:処置:保存療法、理学療法、手術療法等	専任教員
14	模擬テスト	運動器系の健康障害と症状・治療・処置 模擬テスト	専任教員
15	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕 脳・神経 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕 運動器 (医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
健康障害と治療Ⅳ （感覚器・アレルギー）	講義	1単位	30時間	1年後期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

既習の人体の構造と機能をふまえ、感覚器障害として眼・耳鼻咽喉・歯・口腔・皮膚関連の健康障害の発症のメカニズム・治療・検査について、免疫系（生体防御機能）の特有の疾患・症状の診断・治療・検査・処置について学ぶ。

到達目標

1. 感覚器系の健康障害の主な症状・治療・検査について説明できる。
2. 歯・口腔の主な健康障害と治療・検査について説明できる。
3. 自己免疫疾患やHIVの発症のメカニズムや治療について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習：該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	眼科の疾患①	眼の構造と機能	非常勤講師
2	眼科の疾患②	症状とその病態：視野機能に関連した症状、視野機能に関連しない症状	非常勤講師
3	眼科の疾患③	検査と治療・処置：視力・屈折検査、眼底・眼圧検査、瞳孔・色覚検査、角膜移植	非常勤講師
4	眼科の疾患④	疾患：機能障害、部位別疾患、加齢黄斑変性、白内障、緑内障	非常勤講師
5	耳鼻科の疾患①	耳鼻咽喉の構造と機能	非常勤講師
6	耳鼻科の疾患②	症状とその病態：耳に現れる症状、鼻に現れる症状、口腔・唾液腺・咽頭に現れる症状	非常勤講師
7	耳鼻科の疾患③	検査と治療・処置：聴力検査、平行機能検査、内視鏡検査、画像検査	非常勤講師
8	耳鼻科の疾患④	疾患：耳疾患、鼻疾患、口腔・咽喉頭疾患、気道・食堂・頸部疾患と音声・言語障害	非常勤講師
9	模擬テスト	感覚器系の健康障害と症状・治療・処置　模擬テスト	非常勤講師
10	生体防御機能障害①	アレルギー　呼吸器、消化器、皮膚、薬物、アナフィラキシー	非常勤講師
11	生体防御機能障害②	膠原病の理解：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症、 血管炎症候群、多発性筋炎および皮膚筋炎、混合性結合組織病	非常勤講師
12	生体防御機能障害③	膠原病類縁疾患：抗リン脂質抗体症候群、シェーグレン症候群、ベーチェット病	非常勤講師
13	生体防御機能障害④	感染症の理解：菌血症、敗血症、中枢神経系、頭頚部、呼吸器、消化器、骨盤内、 皮膚皮下組織、骨関節、性・尿路、特殊、全身ウイルス	非常勤講師
14	模擬テスト	生体防御機能の健康障害と症状・治療・処置　模擬テスト	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	非常勤講師

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔13〕 眼 （医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔14〕 耳鼻咽喉 （医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔11〕 アレルギー　膠原病　感染症 （医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
健康障害と治療Ⅴ （内分泌・皮膚・歯・口腔）	講義	1単位	30時間	1年後期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

内部環境調節機能障害として糖尿病、脂質異常症の発症のメカニズム・治療・検査・処置について学修する。また、皮膚・歯・口腔に特有な健康障害及び、おもな症状や治療、検査・処置について学修する。

到達目標

1. 内部環境調節機能障害として糖尿病、脂質異常症の発症のメカニズム・治療・検査・処置について説明できる。
2. 皮膚・歯・口腔の機能障害に関する発症のメカニズム・治療・検査・処置について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習：該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	歯科の疾患①	歯・口腔の構造と機能	非常勤講師
2	歯科の疾患②	症状とその病態：痛み、腫脹、口腔出血、顎口腔機能障害 検査と治療・処置：歯と歯周組織の検査、嚥下機能検査、口腔 乾燥検査、言語機能検査、味覚検査、画像検査、保存治療、口腔外科治療他	非常勤講師
3	歯科の疾患③	疾患：齲歯及び歯髄疾患、口腔領域の炎症・腫瘍、顎関節症、唾液腺の疾患	非常勤講師
4	皮膚科の疾患①	皮膚の構造と機能	非常勤講師
5	皮膚科の疾患②	症状とその病態（発疹、かゆみ、皮膚の老化） 検査と治療・処置：皮膚科的検査、病原微生物検査法、手術療法、光線療法、 レーザー療法、放射線療法	非常勤講師
6	皮膚科の疾患③	疾患：表在性皮膚疾患、腫瘍および色素異常症、感染症　等	非常勤講師
7	模擬テスト	歯科、皮膚系の健康障害と症状・治療・処置　模擬テスト	非常勤講師
8	内部環境調節機能障害と症状・治療・処置①	内分泌器官とホルモンの機能・代謝の機能と概要 検査：ホルモン血中濃度測定、ホルモン負荷試験、尿中定量測定、血液検査等	非常勤講師
9	内部環境調節機能障害と症状・治療・処置②	内分泌系の疾患：視床下部　下垂体前葉系疾患、下垂体後葉系疾患	非常勤講師
10	内部環境調節機能障害と症状・治療・処置③	内分泌系の疾患：甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患	非常勤講師
11	内部環境調節機能障害と症状・治療・処置④	内分泌系の疾患：性腺疾患、消化管ホルモン産生腫瘍、内分泌疾患の救急治療	非常勤講師
12	内部環境調節機能障害と症状・治療・処置⑤	代謝異常の疾患：糖尿病	非常勤講師
13	内部環境調節機能障害と症状・治療・処置⑥	代謝異常の疾患：メタボリックシンドローム、肥満症	非常勤講師
14	内部環境調節機能障害と症状・治療・処置⑦	代謝異常の疾患：脂質異常症、尿酸代謝異常	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	非常勤講師

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔15〕 歯・口腔 （医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔12〕 皮膚 （医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 （医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
健康障害と治療Ⅵ （麻酔・放射線療法）	講義	1単位	15時間	2年前期	非常勤講師・専任教員
実務経験のある教員による科目					

授業概要

既修の人体の構造と機能、病理学、微生物学などの学修内容と関連させながら、麻酔法の種類や特徴、術中の管理について学ぶ。近年、放射線治療の進歩も目覚ましいものがある。これら最新の外科的治療について学修する。

到達目標

1. 全身麻酔・局所麻酔について概要を説明できる
2. 麻酔における術前・術中・術後の観察ポイントを説明できる
3. 放射線治療の特徴と防御について説明できる

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所について調べて授業に臨む
事後学習：該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	麻酔法①	麻酔とは、麻酔の種類（全身麻酔、局所麻酔）と特徴	非常勤講師
2	麻酔法②	術中管理（術中の呼吸管理、体液管理）	非常勤講師
3	麻酔法③	小児の麻酔の特徴、高齢者の麻酔の特徴	非常勤講師
4	まとめ	麻酔法	専任教員
5	放射線療法①	放射線とは、放射線治療の特徴・目的、放射線障害と防御	非常勤講師
6	放射線療法②	放射線治療の適応と治療法（脳腫瘍、肺がん、食道・直腸がん、乳がん、子宮がん他）	非常勤講師
7	まとめ	放射線療法	非常勤講師
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　（医学書院） 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
微生物学	講義	1単位	30時間	1年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

感染症は医学上もっとも重要な疾患の一つである。最近では新型コロナウイルスによる感染が世界を震撼させ、生活スタイルまでもが変化を余儀なくされ、さらに新たな病原体による感染症や院内感染などが社会的に危惧されている。病原体の種類とこれらがどのようにヒトと関わり感染症を引き起こすのかについて学ぶ。さらに感染症の予防および制御の重要性と方法を理解しこれらの知識を活かして、看護の現場で感染症に対して適切に対応できるように学修する。

到達目標

1. 感染のメカニズムについて説明できる。
2. グラム陽性菌・陰性菌、ウイルスの特性について説明できる。
3. 感染予防について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	微生物学とは	微生物・医動物とは 微生物学への入門	非常勤講師
2	感染症と病原体①	細菌のアウトライン（大きさ・形態・構造・増殖等）	非常勤講師
3	感染症と病原体②	ウイルスのアウトライン（大きさ・形態・構造等）	非常勤講師
4	感染症と病原体③	原虫・真菌のアウトライン（特徴）	非常勤講師
5	感染とは	感染と発症（発病）	非常勤講師
6	感染防御機構①	免疫（アレルギー・自己免疫疾患を含む）	非常勤講師
7	感染防御機構②	免疫のまとめ・感染の予防	非常勤講師
8	感染・発症予防	滅菌・消毒・標準予防策等	非常勤講師
9	感染の検査・治療	化学療法剤（薬剤耐性を含む）	非常勤講師
10	細菌学各論①	グラム陽性菌	非常勤講師
11	細菌学各論②	グラム陰性菌	非常勤講師
12	細菌学各論③	スピロヘーター・マイコプラズマ・リケッチャ・グラミジア	非常勤講師
13	ウイルス学各論	DNAウイルス・RNAウイルス	非常勤講師
14	真菌・原虫学各論	真菌・原虫学各論　まとめ	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	非常勤講師

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進〔4〕 微生物学 （医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
薬理学	講義	1単位	30時間	1年後期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

多数の薬が使用されている臨床の現場では、薬の特徴や作用を理解することは看護師にとって非常に重要である。①薬物の体内動態と作用部位、②薬物の作用機序と薬理作用（どうして薬が効くのか）、③薬物の臨床適用（どのような効果を示すか）、④薬物の副作用とその対策（副作用の出現を察知し、看護師としてどう対応するか）、以上について薬理学の基礎知識と薬物治療の基本について学修して看護に活かせるようにする。

到達目標

1. 医薬品が人体に作用する仕組みを説明できる。
2. 抗がん剤の作用、副作用について説明できる。
3. 脳・中枢神経系疾患で用いられる薬の作用、副作用について説明できる。
4. 予防接種の作用、副反応について説明できる。
5. 代謝機能障害で用いられる薬の作用、副作用について説明できる。
6. アレルギー・免疫不全状態で使用する薬の作用、副作用について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	医薬品総論①	医薬品総論 医薬品とは	非常勤講師
2	医薬品総論②	医薬品総論 薬が作用する仕組み（薬力学）	非常勤講師
3	医薬品総論③	医薬品総論 薬物の吸収・薬物有害反応	非常勤講師
4	医薬品総論④	医薬品総論 医薬品に関する法律・適正な使用に向けて	非常勤講師
5	がん・痛みに使用する薬	抗がん剤・免疫抑制剤・疼痛ラダー・オピオイド・NSAIDs	非常勤講師
6	脳・中枢神経系疾患で使用する薬	抗てんかん薬・パーキンソン治療薬・向精神薬等	非常勤講師
7	感染症に使用する薬	消毒薬・予防接種薬等	非常勤講師
8	救命時に使用する薬	救命救急時に使用する薬	非常勤講師
9	アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬	呼吸器疾患に使用する薬・関節リウマチに使用する薬等	非常勤講師
10	消化器疾患に使用する薬	潰瘍・下痢・肝臓等疾患に使用する薬等	非常勤講師
11	その他症状に使用する薬①	代謝機能障害・内分泌障害等	非常勤講師
12	その他症状に使用する薬②	血液・造血器障害・腎機能障害等	非常勤講師
13	物質代謝に作用する薬	物質代謝・皮膚科・眼科に使用する薬	非常勤講師
14	漢方薬	漢方薬	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	非常勤講師

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進〔3〕　薬理学　（医学書院）
参考図書等	系統看護学講座　別巻　臨床薬理学　（医学書院）
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
臨床推論	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	専任教員
実務経験のある教員による科目					

授業概要

看護師は、健康課題を持つ対象者を全人的にとらえ、健康の保持・増進に努めなければならない。その中でも、急性発症した対象者に対して全人的ケアを提供するためには、対象が示す症状や状態から今どのようなことが起こっているのか筋道を立てて推測していく、臨床推論の概念が重要である。事例を用いて臨床推論の能力を高めていくことは、健康課題を持つ対象者とその家族の健康の保持と健康の質に関わる重要な力となる。

到達目標

1. 臨床推論の思考過程について説明できる。
2. 成人期の特徴を踏まえ事例の症状から健康障害や関連する内容を推測し、根拠をもって説明できる。
3. 老年期の特徴を踏まえ事例の症状から健康障害や関連する内容を推測し、根拠をもって説明できる。
4. 小児期の特徴を踏まえ事例の症状から健康障害や関連する内容を推測し、根拠をもって説明できる。
5. 訪問看護事例から在宅での健康障害や関連する内容の推測や、トリアージについて説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所について調べて授業に臨む
事後学習：該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○					

回数	単元	内容	担当教員
1	臨床推論	ガイダンス 臨床推論の思考過程	専任教員
2	成人事例①	成人の事例　40代男性　呼吸困難のある患者	専任教員
3	臨床推論①	臨床推論したことをグループ討議（マインドマップ）　IBL学習	専任教員
4	成人事例②	成人の事例　50代男性　胸痛のある患者	専任教員
5	臨床推論②	臨床推論したことをグループ討議（マインドマップ）　IBL学習	専任教員
6	急性症状③	行き倒れて打撲、出血、発熱で救急救命室に搬送された患者	専任教員
7	臨床推論③	臨床推論したことをグループ討議（マインドマップ）　IBL学習	専任教員
8	老年事例④	老年の事例　70歳代　女性　意識障害をきたしている	専任教員
9	臨床推論④	臨床推論したことをチーム間ディスカッション　IBL学習	専任教員
10	小児事例⑤	小児の事例　5歳　男児　発疹が急に出現した	専任教員
11	臨床推論⑤	臨床推論したことをチーム間ディスカッション　IBL学習	専任教員
12	訪問事例⑥	老老介護の訪問時に発生した転倒を発見	専任教員
13	臨床推論⑥	臨床推論したことをチーム間ディスカッション　IBL学習	専任教員
14	在宅事例⑦	訪問看護中に発生した急性発症時のトリアージ（脱水）	専任教員
15	臨床推論⑦	臨床推論したことをチーム間ディスカッション　IBL学習	専任教員

評価	客観式試験（伊藤：100点）
テキスト	
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
カウンセリング論	講義	1単位	15時間	2年後期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

医療の世界において対象者に治療的に関わることは、人々の健康課題の解決や健康の保持にとって大切な要素になる。本科目ではカウンセリングとは何かということやカウンセリングの基本的なテクニックについて、具体的な事例や技法を通して学ぶ。カウンセリングの基礎や理論の学びを通して、自己理解や他者理解における柔軟な視点や、対人関係を振り返り、カウンセリングの重要性について理解できるように学修する。

到達目標

1. カウンセリングの意義と過程について説明することができる。
2. カウンセリングに用いられる基本的なテクニックについて説明することができる。
3. 看護におけるカウンセリングの重要性について自分の意見を述べることができる。

事前学習・事後学習

事前学習：各授業のテーマに該当する内容について自主的に調べ、配布資料に目を通しておく
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			◎			○

回数	単元	内容	担当教員
1	総論	カウンセリングの概要	非常勤講師
2	総論	カウンセリングプロセス、カウンセリングの基本（傾聴・観察・アセスメント）	非常勤講師
3	カウンセリング・テクニック事例①	事例から考える 今どんな悩みがあるか、協働作業、言い換え、反映、治療目標、危機介入	非常勤講師
4	カウンセリング・テクニック事例②	事例から考える 今どんな悩みがあるか、協働作業、言い換え、反映、治療目標、危機介入	非常勤講師
5	非言語的コミュニケーション①	非言語コミュニケーション、自己開示、間接暗示、感情アプローチ、直面化、認知再構成、解釈、エンパワーメント①	非常勤講師
6	非言語的コミュニケーション②	非言語コミュニケーション、自己開示、間接暗示、感情アプローチ、直面化、認知再構 成、解釈、エンパワーメント②	非常勤講師
7	変容のプロセス	変容プロセス、トラブル解決、エクスポージャー、ソーシャルスキル、行動活性化、セルフモニタリング	非常勤講師
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
リハビリテーション概論	講義	1単位	15時間	2年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

医療の高度化により死亡率は低下した反面、障害をもちながら生活する人は増加している。高齢化もそれを助長している要因となっている。障害をもつ人々の生活の質を高めるリハビリテーションの概念は、当事者およびその家族にとって重要である。リハビリテーションにおける看護は対象である人間を、健康障害や障がいをもちながらも生活者としてとらえ、その人らしく生きることを支援し生活の質（QOL）を高めていけるように援助することにある。リハビリテーションの必要な人を支援するための基礎的知識として、リハビリテーションの定義や歴史、倫理、種類およびリハビリテーションに関連する概念や、看護におけるリハビリテーションについて学修する

到達目標

1. リハビリテーションとは何か説明できる
2. リハビリテーションの種類と特徴を説明できる
3. 看護におけるリハビリテーションについて説明できる
4. リハビリテーションの対象を生活者としてとらえるICFについて説明できる

事前学習・事後学習

事前学習：授業に該当する箇所は予習して授業に臨む、各単元で学びたいことを明らかにし、自ら学習目標を立てて望む
事後学習：授業を振り返り各単元において事前学習で立てた目標を評価し、疑問を解決する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○		◎	

回数	単元	内容	担当教員
1	リハビリテーションとは	ガイダンス リハビリテーションの歴史・定義、障害とは、リハビリテーションにおける倫理、法律、施策、障がい者の権利、法律とサービス	非常勤講師
2	リハビリテーションの分野	リハビリテーションの分野、理学療法士から見たリハビリテーション、作業療法士から見たリハビリテーション	非常勤講師
3	リハビリテーション看護①	リハビリテーション看護とは、リハビリテーション看護の対象	非常勤講師
4	リハビリテーション看護②	急性期のリハビリテーション看護、回復期のリハビリテーション看護	非常勤講師
5	リハビリテーション看護③	生活再構築期のアセスメント、生活期（維持期）のリハビリテーション	非常勤講師
6	リハビリテーション看護④ （事例で考える）	事例と片麻痺体験を通しアセスメント、援助方法（セルフケアの援助を中心に）について考える	非常勤講師
7	地域におけるリハビリテーション	地域におけるリハビリテーション（地域の取り組み例）、チーム医療と看護	非常勤講師
8	まとめ	授業の振り返り	非常勤講師

評価	
テキスト	系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
現代医療論	講義	1単位	15時間	1年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

現代は少子高齢化、格差の問題、新たな感染症による生活や医療への影響や、病院中心の医療から地域医療へのシフトなど、大きく変化している。国民の健康や医療に関する認識も変化している。医療の高度化・複雑化は「命」に対する新たな問題も提起している。これらに対して医療に関わる我々はどのように考えていけばいいのか論じる。

到達目標

1. 医療の変遷について説明できる。
2. 現代医療の諸問題について自分の考えを述べることができる。

事前学習・事後学習

事前学習：課題について予習して授業に臨む。
事後学習：テーマについて振り返りを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎					

回数	単元	内容	担当教員
1	医療の歩みと医療観の変遷	医療の歩みと医療観の変遷 人類史・科学史・医学史	非常勤講師
2	科学技術の進歩と現代医療の最前線	現代医学と先端医療技術 がん診療、移植医療、人工臓器開発、体外受精と出生前診断、再生医療、画像診断	非常勤講師
3	医療と人道支援	中村哲医師に学ぶ人道支援	非常勤講師
4	現代医療の諸問題①	現代医療の課題 先端医療がもたらす倫理上のジレンマ、生命倫理について	非常勤講師
5	現代医療の諸問題②	脳死と臓器移植について	非常勤講師
6	現代医療の諸問題③	体外受精、出生前診断、人工妊娠中絶、人は死を選べるのか	非常勤講師
7	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントと医療情報の開示、なぜ医療不信は起こるのか	非常勤講師
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　別巻　総合医療論　（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎　医療概論　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
食事療法	講義	1単位	15時間	2年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

食生活が人間の健康や病気に与える影響が大きいことはよく知られています。ライフスタイルのひとつである個々の食習慣は、生活習慣病の要因として重要な地位を占め、健康のレベルに大きく関与し結果として生活の質にも影響します。将来看護師としてより効果的な援助者となるために、既修の栄養代謝学の学修内容と関連させながら、ライフステージや健康障害の種類に沿った食事療法の知識の修得を目指します。健康課題がある対象に食生活の面からアプローチできるようになるために学び、対象者の生活の質の向上に活かせるように学修します。

到達目標

1. 人間にとって食事の意味や、栄養食事療法の概要について説明できる。
2. 栄養アセスメントの基本について説明できる。
3. 各疾病と栄養との関連性を理解し、看護上の注意について説明できる。
4. 在宅患者の栄養管理、栄養サポートチームの実際について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○			◎	

回数	単元	内容	担当教員
1	栄養食事療法とは	人間にとって食事の持つ意味や特性、栄養食事療法の概要	非常勤講師
2	ライフサイクルと栄養 食物アレルギー 日本人の食事摂取基準	乳幼児期から老年期における栄養、食物アレルギー日本人の食事摂取基準 （エネルギー・たんぱく質・脂質・等） 栄養アセスメントの基本 栄養状態の評価・判定	非常勤講師
3	循環器疾患患者の栄養食事療法	疾患と栄養の関連性を概説（高血圧 心不全 脳血管障害）	非常勤講師
4	消化器疾患・がん患者の栄養食事療法等	疾患と栄養の関連性を概説（胃がんの分割食や低栄養時の援助 肝・胆・膵の障害） がん治療における栄養食事療法	非常勤講師
5	腎・泌尿器疾患患者の栄養食事療法	疾患と栄養の関連性を概説（腎疾患 泌尿器疾患）	非常勤講師
6	内分泌・代謝疾患患者の栄養食事療法	疾患と栄養の関連性を概説（糖尿病 糖尿病の交換表の利用 高尿酸血症）肥満 やせ	非常勤講師
7	在宅患者の栄養管理、栄養サポートチームの実際	食欲不振の患者の栄養管理、NSTにおけるチーム医療の実際統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院	非常勤講師
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 （医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
公衆衛生学	講義	1単位	30時間	2年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

公衆衛生学は生活の質を向上させるために、みんな(国民)の健康をみんなで守る保健医療の組織的な営みである。そのためには個々の健康の保持増進が大切になる。日本は「健康日本21」構想が進められ、健康への関心は高まっている。健康やヘルスプロモーションの概念について学び、さらに地域保健福祉活動の実際を学ぶ。具体的にはヘルスサービスの構造と今後の社会変化を踏まえたヘルスサービスの方向について、母子保健・学校保健の歴史と現状及び課題、国民的な問題である生活習慣病と健康増進法について、難病とその医療費助成や医療体制、健康対策と健康対策とヘルスプロモーションの進め方、産業保健では労働環境について学び、環境と健康の関係や施策、社旗の変化に伴う諸問題について洞察し、人々の健康に寄与できるように学修する。

到達目標

1. 健康を保持・増進させるための社会的施策の変遷について理解し説明できる。
2. 人の健康を集団でとらえ、疫学的視点から理解するために、疫学の基礎的手法を理解し説明できる。
3. 日々の生活と自分達をとりまく環境の係わりを理解し、環境問題について説明できる。
4. 母子保健・学校保健・成人保健・高年齢保健等の人の生涯を通じた保健衛生上の問題点を理解するとともに、それぞれに関連した法令・制度について理解できる。
5. 感染症動向について理解し、その対策について列記できる。

事前学習・事後学習

事前学習:該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習:当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	○		◎	

回数	単元	内容	担当教員
1	公衆衛生の概念	公衆衛生の概念・定義・歴史	非常勤講師
2	公衆衛生のしくみ	公衆衛生の活動対象、公衆衛生のしくみ	非常勤講師
3	公衆衛生と疫学・保健統計	公衆衛生における疫学、保健統計学	非常勤講師
4	環境と健康	地球規模の環境と健康、身の回りの環境と健康	非常勤講師
5	感染症対策	感染症とその予防	非常勤講師
6	国際保健	国際保健	非常勤講師
7	母子保健	母子保健	非常勤講師
8	成人保健	成人保健	非常勤講師
9	高齢者保健	高齢者保健	非常勤講師
10	精神保健	精神保健	非常勤講師
11	歯科保健 障碍者・難病対策	歯科保健・障碍者・難病対策	非常勤講師
12	学校保健	学校保健	非常勤講師
13	産業保健	産業保健	非常勤講師
14	災害保健	災害保健	非常勤講師
15	健康教育とヘルスプロモーション	健康教育とヘルスプロモーション	非常勤講師

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度[2]　公衆衛生学　(医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
社会福祉学	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

人間は誕生から死まで生活していくのに、個人や家族の努力だけでは対応できない困難な状況に直面する。そのようなときに最低生活を保障する公的な制度が社会保障制度であるが、それぞれの社会で歴史的に形成されてきた制度であり、その意味は時代や社会によって異なる。本科目では社会福祉の思想、理論、制度、支援などの基礎について学ぶ。また、ヒューマンサービスに携わる者としての倫理と人間の尊厳の尊重を基礎においた生活支援についても学び、地域や医療現場における保健・医療・福祉の連携について考え、実践できるようになるための基礎知識の修得をめざす。

到達目標

1. 現代社会における社会福祉の理念と意義について説明できる
2. 社会福祉の対象とICFの考えに基づいた支援の形態及び方法について説明できる
3. 社会保障と社会福祉サービス体系の概要について説明できる
4. 社会福祉をめぐるわが国および諸外国の動向について説明できる
5. 地域の高齢化および地域包括ケアの必要性について述べることができる

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		◎		

回数	単元	内容	担当教員
1	生活と福祉	なぜ福祉を学ぶのか、生活基盤、ライフスタイル、人間集団としての働き	非常勤講師
2	社会保障の概念と歴史	社会保障とは何か、日本の社会保障の構成、歴史的発展、社会保障の財政	非常勤講師
3	わが国の社会保障制度①	医療保険制度、高齢者医療制度、医療提供体制と国民医療費	非常勤講師
4	わが国の社会保障制度②	介護保険制度	非常勤講師
5	わが国の社会保障制度③	年金保険制度、労働保険制度	非常勤講師
6	社会福祉の歴史	慈善事業から福祉国家まで（精神医療、障がい者医療の歴史を含む）ICF	非常勤講師
7	現代社会における貧困	子どもの貧困（その原因と支援策）、ホームレス（その原因と支援策）	非常勤講師
8	社会福祉の諸制度と施策①	生活保護（医療扶助を含む）、無料定額診療、低所得者への支援策	非常勤講師
9	施策②	障がい児・者への福祉施策、障がい者差別解消法と地域ケア	非常勤講師
10	施策③	地域で生活する高齢者の支援、認知症ケア、ターミナルケア、地域包括ケアシステム	非常勤講師
11	世界の社会福祉	グローバリズムと環境問題、難民、女性、民族の問題	非常勤講師
12	グループプレゼンテーション①	準備	非常勤講師
13	グループプレゼンテーション②	地域調査で社会福祉を学ぶ	非常勤講師
14	グループプレゼンテーション③	プレゼンテーション	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	非常勤講師

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度［3］ 社会保障・社会福祉 （医学書院）
参考図書等	
留意事項	

専 門 分 野

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
看護学概論	講義 演習	1単位	30時間	1年前期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

看護師は対象の健康問題をその対象とともに解決していこうとする職業である。ここでは看護とは何か、看護師とはどのような職業なのか基本となる姿勢や考え方を学ぶ。「看護師になりたい」という気持ちを実際の行為として具現化する方法を学んでいく。その時に必要な知識として、「人間」「健康」「社会」「看護」を考え、現代社会の状況から看護の動向や課題、看護の法的基盤や看護倫理を学びます。看護する者としての倫理観・職業実践能力の育成を目標に、努力する姿勢を養うよう学修する。

到達目標

1. 看護とは何か自分の言葉で表現できる。
2. 看護の動向、歴史及び社会状況から看護の課題を考え、説明できる。
3. F・ナイチンゲールの看護について説明できる。
4. V・ヘンダーソンの提唱する看護について説明できる。
5. 職業倫理及び看護倫理について自分の意見を述べることができる。
6. 今後の看護の展望について自分の意見を述べることができる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：当日の該当のテーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				○

回数	単元	内容	担当教員
1	看護とは何か	授業ガイダンス 「看護」についての思いを表現する、看護の対象とは	非常勤講師
2	看護の歴史 看護の変遷	【事前課題：「人間」とは何？を考えてくる】 看護の歴史、看護の変遷、看護の概念導入	非常勤講師
3	看護の概念①	【事前課題：看護理論化の枠組みについてまとめる】 「人間」「健康」「環境」「看護」についてGW	非常勤講師
4	看護の概念②	【事前課題：発表できるようにグループの意見をまとめ印刷しておく】 「人間」「健康」「環境」「看護」について発表とまとめ、看護覚え書Gメンバー発表	非常勤講師
5	ナイチンゲール 看護覚え書①	【事前課題：「看護覚書」担当箇所を読んでまとめる】 「看護覚書」GW	非常勤講師
6	看護覚え書②	「看護覚書」発表、まとめ 看護の基本となるものGメンバー発表	非常勤講師
7	ヴァージニア・ヘンダーソン看護の基本となるもの①	【事前課題：「看護の基本となるもの」担当箇所を読んでまとめる】 「看護の基本となるもの」GW	非常勤講師
8	ヴァージニア・ヘンダーソン看護の基本となるもの②	「看護の基本となるもの」発表、まとめ	非常勤講師
9	看護の目的と機能 専門職業人とは	看護の目的と機能、専門職業人とは、チーム医療と看護	非常勤講師
10	ライフサイクルと健康	ライフサイクルとは、健康とは、健康と看護	非常勤講師
11	クリティカル・シンキング	看護とクリティカル・シンキング、問題解決思考	非常勤講師
12	看護と人権・倫理	看護と人権、看護における倫理、倫理ジレンマについて	非常勤講師
13	看護と国際化	国際的な健康問題、国際協力、文化を超えた看護の必要性	非常勤講師
14	看護の展望	EBNからEBPへ、看護の活動領域、看護の課題	非常勤講師
15	まとめ	授業の振り返り	非常勤講師

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔1〕 看護学概論 （医学書院） ナイチンゲール　看護覚え書 （現代社） 看護の基本となるもの　ヴァージニア・ヘンダーソン （日本看護協会出版社）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
キャリアデザイン	講義 演習	1単位	15時間	1年後期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

看護専門職として生涯教育への導入を図るとともに、看護を学ぶ学生として求められる自律性と社会人基礎力育成の基盤とする。医療はとどまることなく変化している。その変化する社会に求められる看護について考え、自分の未来について看護職者としてあるべきイメージを描き、そのためには何をすべきかを思考し、学修ビジョンを明確にし、生涯にわたって看護に携わる者として人格の涵養に努め、学び続ける意欲を維持し自己実現できる礎となるように学修する。

到達目標

1. 現代社会に求められる看護について述べることができる。
2. 看護専門職の専門分野とキャリアについて説明できる。
3. 看護を学ぶ自己のキャリア形成について考えることができる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						○

回数	単元	内容	担当教員
1	ポートフォリオの活用 現代社会と看護	ポートフォリオとは、ポートフォリオの活用方法（パーソナルポートフォリオ） 医師からの立場から、看護師の立場から	非常勤講師
2	キャリア教育と看護基礎教育	看護教育とは、本学での教育課程とキャリア教育のつながり 今自分が考えるキャリアとは	非常勤講師
3	看護職のキャリア①	専門職としてキャリア形成に必要な知識・技術・態度とは 看護職のキャリアとは	非常勤講師
4	看護職のキャリア②	専門看護師の立場から（いかにキャリアを形成していったかその過程）	非常勤講師
5	看護職のキャリア③	保健師の立場から（いかにキャリアを形成していったかその過程）	非常勤講師
6	看護職のキャリア④	助産師の立場から（いかにキャリアを形成していったかその過程）	非常勤講師
7	学校生活と就職のデザイン	社会人基礎力、キャリア形成準備期、自己のキャリアデザイン	非常勤講師
8	まとめ	自己のビジョン・ゴールシート作成	非常勤講師

評価	課題レポート（80点）、最終成果物（20点）
テキスト	なし
参考図書等	アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する （医学書院） キャリアストーリーをポートフォリオで実現する （日本看護協会出版社） 看護師のためのキャリアデザインBOOK （つちや書店）
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
看護コミュニケーションと学習支援	講義 演習	1単位	30時間	1年前期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

コミュニケーションスキルは、患者のニードを理解し、看護ケアにいかすため、患者－看護師関係を発展させるために重要な看護技術である。日頃、患者や患者・家族と接する際だけでなく、意思決定支援の場面でも必須であり、その重要性は増してきている。そのため、既習の人間関係論やカウンセリング論と関連させながら、看護コミュニケーションにおける実践的な方法を体験的な学習を通して学ぶ。また、効果的なコミュニケーション方法を用いながら健康に関わる学習を支援する看護技術について、基礎的な知識と実際を学ぶ。

到達目標

1. 看護におけるコミュニケーションの意義を述べることができる。
2. コミュニケーションの基本的構成要素と成立過程について述べることができる。
3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本がわかる。
4. 効果的なコミュニケーション方法を用い、実践できる。
5. コミュニケーション能力向上のために、対人関係について自己分析する方法がわかる。
6. 看護における学習支援の目的・意義を述べることができる。
7. 学習支援の実際がわかる。

事前学習・事後学習

事前学習:該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習:当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	コミュニケーションの意義・目的	コミュニケーションとは　看護・医療におけるコミュニケーション	非常勤講師
2	コミュニケーションの構成要素 と成立過程	コミュニケーション手段　構成要素と成立過程　ミスコミュニケーション	非常勤講師
3	関係構築のための コミュニケーションの基本	接近的コミュニケーションの原理　接近的行動の前提となる基本的な態度 接近的行動と非接近的行動	非常勤講師
4	効果的なコミュニケーションの実際	傾聴の技術　情報収集の技術　説明の技術	非常勤講師
5	コミュニケーションにおける看護実践	「あなたの話を聴いています」と伝えるためには(演習)	非常勤講師
6	コミュニケーションにおける看護実践	「あなたの話を聴いています」と伝えるためには(グループワーク)	非常勤講師
7	自己理解	プロセスレコードの目的・方法・活用方法　アサーティブネス	非常勤講師
8	自己理解	プロセスレコードの検討	非常勤講師
9	コミュニケーション障害への対応	言語障害・視覚障害・聴覚障害がある人との場面(演習・グループワーク)	非常勤講師
10	コミュニケーションの実践	「事例に基づきコミュニケーションをとろう」（演習・グループワーク)	非常勤講師
11	看護における学習支援	学習支援の基本となる考え方　看護師の役割としての学習支援	非常勤講師
12	学習支援における看護実践①	さまざまな場所で行われる学習支援:個人指導・集団指導(演習)	非常勤講師
13	学習支援における看護実践②	さまざまな場所で行われる学習支援:個人指導・集団指導(演習)	非常勤講師
14	学習支援における看護実践③	さまざまな場所で行われる学習支援:個人指導・集団指導(演習)	非常勤講師
15	学習支援における看護実践④	さまざまな場所で行われる学習支援:個人指導・集団指導(演習)	非常勤講師

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ　(医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
生活援助技術Ⅰ	講義	1単位	30時間	1年前期	専任教員

実務経験のある教員による科目	臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う

授業概要

看護技術の特殊性として、「技術の対象が人間である」ことが挙げられる。対象が人間であるため、それを全体として捉え、その技術を受ける人の反応全体の五感を通して感じ、根拠を踏まえて対象に応じた技術を適応することの意味を考える。
患者にとっての病床は、治療・看護を受ける場であるとともに、心身を休める、食事をとる等、様々な生活の場となる。個々の患者にとって、少しでも療養生活が送りやすく、快適な場であるように環境を整える技術を修得する。
多様な生活状況に対応できるよう、ベッドやベッド周囲の環境を整える技術を修得する。
疾患などにより、日常生活動作に支障を来し、これまで当たり前に行っていた生活を行うことができなくなる場合がある。活動の援助を通し、看護による活動の援助は、ただ単に人の動きを助けるだけではなく、生活を支える援助でもあることを学修する。

到達目標

1. 看護技術の基盤となる知識・技術・態度について説明できる。
2. 感染防止のためのスタンダードプリコーションを実施できる。
3. 療養生活が安全・安楽・快適に送れるように環境を整える(ベッドメイキング・シーツ交換)ことができる。
4. ボディメカニクスを活用し体位変換が実施できる。
5. 療養生活が安全・安楽・快適に送れるための療養環境の整備における技術・態度を修得することができる。

事前学習・事後学習

事前学習:該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習:当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			◎			

回数	単元	内容	担当教員
1	生活環境の意義①	《安全な療養環境の整備》 生活環境とは　からだをうごかすこと	専任教員
2	感染防止の基準①	《安全な療養環境の整備》 感染とその予防の基礎知識　スタンダードプリコーション　感染経路別対策 感染性廃棄物の取り扱い	専任教員
3	感染防止対策②	《安全な療養環境の整備》 衛生学的手洗い　ガウンテクニックの実際(手洗い、手指衛生技術チェック)	専任教員
4	病床環境②	《安全な療養環境の整備》 病床環境と整備	専任教員
5	病床整備③	《安全な療養環境の整備》 環境整備の実際(スタンダードプリコーション～環境整備技術チェック)	専任教員
6	ボディメカニクス	《安楽な療養環境の整備》 ボディメカニクスとは　姿勢と動作	専任教員
7	体位の保持と移動①	《安楽な療養環境の整備》 活動の援助　日常生活動作　体位変換	専任教員
8	体位の保持と移動②	《安楽な療養環境の整備》 体位変換の実際	専任教員
9	体位の保持と移動③	《安楽な療養環境の整備》 歩行・移動介助、車椅子の移乗・移送、ストレッチャーへの移動・移送演習 廃用症候群　褥瘡形成の予防(発生要因　発生リスク)　転倒・転落の予防	専任教員
10	病床整備④	《安全な療養環境の整備》 入院患者のシーツ交換　デモストレーション	専任教員
11	病床整備⑤	《安全な療養環境の整備》 入院患者のシーツ交換(2人実施)	専任教員
12	主症状のある患者の看護	《発熱のある患者の看護》 冷罨法、温罨法の定義と実際	専任教員
13	病床整備⑥	【技術試験】 シーツ交換(スタンダードプリコーション含む)	専任教員
14	病床整備⑦	【技術試験】 シーツ交換(スタンダードプリコーション含む)	専任教員
15	まとめ	授業内容振り返り	専任教員

評価	客観式試験(70点)、技術試験(30点)
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　(医学書院)
参考図書等	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造[1]　解剖生理学　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[1]　看護学概論　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[10]　運動器　(医学書院)
留意事項	技術の習得には反復練習が大切です。予習・復習を行い積極的に学びましょう。

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
生活援助技術Ⅱ	講義 演習	1単位	30時間	1年通年	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

疾病・障害など何らかの理由によって、普段通りの清潔・衣生活の維持が困難になった対象に、その人の普段の生活に近い方法、あるいは最も適した方法で清潔行為をし、その人らしい療養生活が送れるように清潔・衣生活を整える技術を修得する。
清潔・衣生活援助の基礎知識として、皮膚・粘膜の構造と機能、入浴・部分浴を中心とした清潔援助の効果と呼吸・循環器など全身への影響を学び、その人の病態に即した援助方法を選択するときの留意点について理解したうえで、具体的な援助技術について学習する。
身体の一部（あるいは大部分）を露出し、排泄の援助などでは家族にも晒すことのない部分をさらす必要があるため、個人のプライバシーが侵害されやすくデリケートな部分に踏み込む状況になる。対象者のプライバシーを保護する技術・態度を修得する。
人間にとって活動・休息の意義について考える。

到達目標

1. 日常生活の援助（衣・清潔・睡眠・休息）について説明できる。
2. 皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響について説明できる。
3. 清潔援助の方法選択の視点を理解し、それぞれの清潔援助をプライバシーに配慮し実施できる。
4. 病床での衣生活の基礎知識を学び、対象の状況に応じて寝衣交換が実施できる。
5. 人間にとって活動と休息の意義について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む、課題学習提出。
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				○

回数	単元	内容	担当教員
1	活動・休息援助	《睡眠・休息の援助》 援助の基礎知識 睡眠・休息の援助の実際	専任教員
2	清潔・衣生活援助①	《清潔の援助》 清潔の援助の基礎知識 《病床での衣生活の援助》 援助の基礎知識 衣生活援助の実際	専任教員
3	清潔援助の実際①	《清潔の援助の実際》 入浴・シャワー浴・全身清拭・陰部洗浄の基礎知識	専任教員
4	清潔援助演習①	《清潔の援助の実際》 臥床患者の更衣	専任教員
5	清潔援助の実際②	《清潔の援助の実際》 洗髪・手浴・足浴の基礎知識	専任教員
6	清潔援助演習②	《清潔の援助の実際》 臥床患者の全身清拭	専任教員
7	清潔援助演習③	《清潔の援助の実際》 臥床患者の陰部洗浄・おむつ交換	専任教員
8	清潔・衣生活援助技術演習①	《清潔の援助の実際》 臥床患者の保清(全身清拭・陰部洗浄・おむつ交換・更衣)	専任教員
9	清潔援助演習④	《清潔援助の実際》 手浴(ベッド上)	専任教員
10	清潔援助演習⑤	《清潔援助の実際》 足浴(端座位・ファウラー位)	専任教員
11	清潔援助演習⑥	《清潔援助の実際》 洗髪(ベッド上)	専任教員
12	清潔援助の実際③	《清潔援助の実際》 口腔ケア（座位・ベッド上）・整容の基礎知識	専任教員
13	清潔援助演習⑦	《清潔援助の実際》 口腔ケア(ベッド上)	専任教員
14	清潔援助演習⑧	《清潔援助の実際》 整容(ベッド上)	専任教員
15	清潔・衣生活援助技術演習②	臥床患者の全身の保清【技術チェック】	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ （医学書院） 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ （医学書院）
参考図書等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔12〕 皮膚 （医学書院） 系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 （医学書院） 系統看護学講座　専門分野　老年看護学 （医学書院） 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 （医学書院）
留意事項	事前学習を行い臨むこと。 講義後は反復練習を行い技術チェックに備える。

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
生活援助技術Ⅲ	講義 演習	1単位	30時間	1年通年	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

看護の対象となる人間の日常生活行動を理解し、安全・安楽・自立に考慮した援助を提供するために必要な基礎的知識を学ぶ。本科目では日常生活を振り返り、当たり前に行っている食事・排泄を意識することで、それらを人の手にゆだねなければならない患者の苦痛を考え具体的な援助方法を学べるように進めていく。

到達目標

1. 人間にとっての食事・栄養の意義を知り、栄養状態・食欲・摂食能力の基礎的なアセスメントを理解できる。
2. 人間にとっての排泄の意義や生理的メカニズムを知り、排泄のアセスメント
3. 食事介助を通して、自分で食事ができない対象の気持ちを理解し、援助のあり方を考える。
4.オムツ体験を通して、対象の羞恥心に配慮し、尊厳を保った排泄援助とはどうあるべきか自分の意見を述べることができる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所の教科書を熟読しておく。
事後学習：教科書、ノート、資料を必ず読み返す。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	看護技術の基盤	授業ガイダンス・看護技術の基盤	専任教員
2	食事援助の技術	食事援助の基礎知識・食事のアセスメント・医療施設で提供される食事	専任教員
3	食事援助の技術	食事援助の実際・誤嚥について	専任教員
4	食事援助の技術	非経口的栄養の援助(経管栄養法・経鼻胃チューブ・中心静脈栄養)	専任教員
5	食事援助の実際　演習①	介助を要する食事援助　①目が見えない対象	専任教員
6	食事援助の実際　演習②	介助を要する食事援助　①利き手が使えない対象	専任教員
7	排泄援助の技術	排泄の意義・看護に求められる姿勢	専任教員
8	排泄援助の技術	排泄のメカニズムとアセスメント	専任教員
9	排泄援助の技術　演習③	ベッド上の排泄体験（オムツ交換）	専任教員
10	排泄援助の技術	自然排泄を促す方法	専任教員
11	排泄援助の技術	自然排泄を促す方法	専任教員
12	排泄援助の技術	テーマ：「対象の羞恥心や尊厳を保った看護技術を提供するには」GW・発表	専任教員
13	排泄援助の技術（侵襲を伴う）	導尿・膀胱留置カテーテルの管理・浣腸	専任教員
14	排泄援助の技術（侵襲を伴う）	摘便・ストーマ	専任教員
15	総括	生活援助技術Ⅲのまとめ	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔2〕　基礎看護技術Ⅰ　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔3〕　基礎看護技術Ⅱ　（医学書院）
参考図書等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔12〕　皮膚　（医学書院） 系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔1〕　解剖生理学　（医学書院）
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
ヘルスアセスメントと記録	講義 演習	1単位	30時間	1年後期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

看護師が看護ケアを行うためには、患者の全体像を把握し、それらの情報を分析・解釈して看護介入を決定する。そのために、フィジカルアセスメントを行い、患者の身体な状態の把握をすることは不可欠である。さらに、フィジカルアセスメントに加え、心理・精神的側面や社会的側面を評価し、健康上の問題を明確にすることで、適切な看護援助を行うことができる。本科目では、フィジカルアセスメントに関する内容を中心に基本的な知識と技術を学ぶ。

到達目標

1. ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント・フィジカルイグザミネーションそれぞれの意味と関連性を説明できる。
2. フィジカルアセスメントに必要な基本的知識がわかる。
3. フィジカルアセスメントに必要な基本的技術を習得することができる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	ヘルスアセスメントとは	ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント・フィジカルイグザミネーションとは フィジカルアセスメントに必要な技術	専任教員
2	バイタルサイン測定と観察	バイタルサインとは　基準値の考え方 体温に関する基礎知識・測定方法　意識に関する基礎知識・評価方法	専任教員
3	バイタルサイン測定と観察	脈拍・呼吸に関する基礎知識・測定方法	専任教員
4	バイタルサイン測定と観察	血圧に関する基礎知識・測定方法	専任教員
5	測定結果と報告 記録について	測定結果の解釈（正常値と異常値）　看護記録の方法　報告の方法	専任教員
6	バイタルサイン測定	バイタルサイン測定（体温・脈拍・呼吸・血圧）演習	専任教員
7	バイタルサイン測定	バイタルサイン測定（体温・脈拍・呼吸・血圧）技術試験	専任教員
8	系統別 フィジカルアセスメント	呼吸器系のフィジカルアセスメント(講義)	専任教員
9	系統別 フィジカルアセスメント	呼吸器系のフィジカルアセスメント(演習)	専任教員
10	系統別 フィジカルアセスメント	循環器系・リンパ系のフィジカルアセスメント(講義)	専任教員
11	系統別 フィジカルアセスメント	循環器系・リンパ系のフィジカルアセスメント(演習)	専任教員
12	系統別 フィジカルアセスメント	乳房・腋窩のフィジカルアセスメント 腹部のフィジカルアセスメント	専任教員
13	系統別 フィジカルアセスメント	筋・骨格器系のフィジカルアセスメント 生殖器と肛門のフィジカルアセスメント	専任教員
14	系統別 フィジカルアセスメント	頭部・顔面・頚部のフィジカルアセスメント 神経系のフィジカルアセスメント	専任教員
15	系統別 フィジカルアセスメント	シミュレーション	専任教員

評価	客観式試験（非常勤講師20点・専任教員50点/70点）、技術試験（30点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　（医学書院） 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	看護技術習得のため、バイタルサイン測定においては、技術試験を行う。 再試験時は客観試験のみでの評価とする

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
診療の補助技術	講義 演習	2単位	45時間	2年通年	非常勤講師・専任教員

実務経験のある教員による科目	臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う

授業概要

診療における援助に関連した基礎的知識を学ぶ。検査や治療過程における援助に必要な看護の基礎的知識を理解し、生活援助技術での学修と関連させながら標準予防策から無菌操作、創傷処置、採血、与薬、注射、酸素ボンベの取り扱いや吸引・吸入の技術を学ぶ。これらの技術は苦痛を伴うことが多く、健康課題のある対象者への安全面や苦痛緩和を考慮した基本的な診療援助技術を学ぶ。また、診療援助技術を行う上での倫理的配慮や看護者としての態度についても学修する。

到達目標

1. 既習の皮膚の構造と機能に基づき、創傷の治癒過程を述べることができる
2. 創傷の管理・感染予防の推進・呼吸を楽にするための知識と技術を理解し、原理・原則に沿って実践できる
3. 検査・治療実践時の介助方法、検体採取方法、実施時の注意点が説明できる
4. 与薬の原則を守って、経口内に与薬ができる
5. 筋肉注射、静脈採血、血糖測定をシミュレーターを用いて実施できる

事前学習・事後学習

事前学習:該当箇所を予習して授業に望む
事後学習:当該のテーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	皮膚・創傷を管理する技術①	創傷管理するための基礎知識、褥瘡予防	非常勤講師
2	皮膚・創傷を管理する技術②	創傷処置演習	専任教員
3	皮膚・創傷を管理する技術③	創傷処置演習 （包帯法・三角巾）	専任教員
4	感染予防を推進する技術①	感染とその予防の基礎知識、感染経路別予防策、医療施設による感染管理 感染を予防するためのプロセス	非常勤講師
5	感染予防を推進する技術②	感染防止の技術(洗浄・消毒・滅菌)、針刺し防止	専任教員
6	感染予防を推進する技術③	感染防止の技術(無菌操作)	専任教員
7	呼吸を楽にする技術①	酸素療法	専任教員
8	呼吸を楽にする技術②	吸引、吸入療法	専任教員
9	呼吸を楽にする技術③	体位ドレナージ	専任教員
10	検査・治療を安全かつ正確に行う技術①	検査の援助(X線単純撮影検査、CT検査、MRI検査、内視鏡検査、心電図検査、尿.便.喀痰検査、血液検査、穿刺法など)放射線被ばく防止策の実施	専任教員
11	検査・治療を安全かつ正確に行う技術②	検査の援助(X線単純撮影検査、CT検査、MRI検査、内視鏡検査、心電図検査、尿.便.喀痰検査、血液検査、穿刺法など)	専任教員
12	検査・治療を安全かつ正確に行う技術③	検査の援助(X線単純撮影検査、CT検査、MRI検査、内視鏡検査、心電図検査、尿.便.喀痰検査、血液検査、穿刺法など)演習①	専任教員
13	検査・治療を安全かつ正確に行う技術④	検査の援助(X線単純撮影検査、CT検査、MRI検査、内視鏡検査、心電図検査、尿.便.喀痰検査、血液検査、穿刺法など)演習②	専任教員
14	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術①	与薬の基礎技術と薬物動態　経口与薬　直腸内与薬について	専任教員
15	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術②	与薬の技術①(吸入、経皮的与薬、点眼、点鼻)	専任教員
16	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術③	与薬の技術①(経口与薬)	専任教員
17	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術④	与薬の技術②(筋肉注射、皮下注射、皮内注射)	専任教員
18	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術⑤	与薬の技術③(静脈注射、カテーテル関連血流感染対策、輸血、点滴の滴下数)	専任教員
19	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術⑥	与薬の技術④(静脈注射、カテーテル関連血流感染対策、点滴の滴下数)演習	専任教員
20	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術⑦	注射演習(静脈注射、筋肉注射演習)	専任教員
21	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術⑧	注射演習(静脈採血演習)	専任教員
22	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術⑨	注射演習(血糖測定演習)	専任教員
23	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術⑩	まとめ	専任教員

評価	客観式試験 （100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ （医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
看護過程	講義 演習	1単位	30時間	1年後期	専任教員

実務経験のある教員による科目	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う

授業概要

看護を科学的に実践するために必要な問題解決思考の基本を学ぶ。看護の対象となる人間の健康上の問題を明らかにし、問題解決に向けた援助を提供するためのアセスメント、問題の明確化、計画、実施、評価の看護過程の方法を学ぶ。看護実践においては対象を全人的に理解することが必要である。

そのためには、どのように対象を捉えるか、全体的に対象をイメージしながら理解できるように、事例を用いた看護過程の展開を行う。シミュレーションにより臨地に近い状態で評価ができるように学修する。

到達目標

1. 対象の理解および看護を実践するために必要な情報収集、問題の明確化、計画立案、実施、評価について説明できる。
2. 肺炎の患者の紙面事例を用いた（実施・評価を除く）一連の看護過程の展開を行うことができる。
3. 看護診断について説明できる。
4. 看護過程を使う意義について考えることができる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				○

回数	単元	内容	担当教員
1	看護過程とは	1. 看護過程の意義・必要性について 2. 問題解決課程と看護過程の関係性について 3. 看護過程の構成要素	専任教員
2	アセスメント①	1. アセスメントとは・アセスメントの2つの段階 2. 情報収集の枠組み・方法・情報の種類	専任教員
3	アセスメント②	1. 情報の分析方法・判断基準・内容 2. 全体像の把握・統合について	専任教員
4	問題の明確化 （看護診断）	1. 診断（看護問題）とは・明示方法 2. 看護問題と共同問題 3. 看護問題の種類・優先順位	専任教員
5	看護計画①	1. 看護計画について 2. 看護目標・長期目標・短期目標	専任教員
6	看護計画②	1. 看護計画の具体策の立案方法	専任教員
7	実施	1. 実施の流れについて 2. 実施と記録について	専任教員
8	評価 看護記録	1. 評価について 2. 看護記録について（SOAP法、フォーカスチャーティング）	専任教員
9	看護過程まとめ 看護過程演習について	1. 看護過程まとめ 2. 看護過程演習説明	専任教員
10	看護過程演習①	肺炎患者の紙面事例の演習（情報収集・分析）	専任教員
11	看護過程演習②	肺炎患者の紙面事例の演習（看護問題の明確化・優先順位の決定）	専任教員
12	看護過程演習③	肺炎患者の紙面事例の演習（看護計画の立案）	専任教員
13	看護過程演習④	肺炎患者の紙面事例の演習（看護計画を実施に移す）	専任教員
14	看護過程演習⑤	肺炎患者の紙面事例の演習まとめ	専任教員
15	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（80点）、課題（20点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ　（医学書院）
参考図書等	看護診断ハンドブック　（医学書院）
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
看護研究の基礎	講義	1単位	15時間	2年後期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

看護の発展は研究によって支えられている。本科目では看護研究を行う意義、方法、倫理的配慮など看護研究の基礎的知識を学び研究に対する理解を深め、3年時に行う看護研究（ケーススタディ）につなげるように研究の基本について学修する。関心のあるテーマに関する文献のクリティークを行い、研究デザインや理論・概念枠組み・データ収集・測定用具・分析方法・分析結果の解釈について概説する。

到達目標

1. 看護研究の概要を説明できる
2. 看護研究の意義を説明できる
3. 研究計画書作成方法を説明できる
4. 質的・量的研究について概要を説明できる
5. 文献検索ができ、クリティークの方法を説明できる
6. 看護研究における倫理的配慮について説明できる

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						◎

回数	単元	内容	担当教員
1	授業ガイダンス・看護研究の概要	①看護研究の意義と歴史的変遷　②看護研究の種類　③看護研究における倫理的配慮	専任教員
2	文献検索とクリティーク	①文献・オンラインデータベースを用いた検索　②クリティーク	専任教員
3	研究デザイン	①看護研究に有用な3つの研究デザイン	専任教員
4	研究計画	①研究テーマの見つけ方　②研究計画書の作成	専任教員
5	分析の基礎知識	①バイアスについて　②看護研究で使用する統計分析	専任教員
6	研究成果の発表方法	①効果的な結果の示し方　②論文執筆のポイント　③効果的なプレゼンテーション	専任教員
7	事例研究の概要	①事例研究の意義と方法	専任教員
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　別巻　看護研究　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
地域看護概論	講義	1単位	15時間	1年後期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

近年、わが国の看護は地域へと拡大、多様化している。背景に超高齢社会があるが、重度の介護状態や難病、障害があっても住み慣れた地域で自分らしく生活したいという人々の意識の変化も大きい。地域・在宅看護は人々の暮らしの中で実践されるため、地域や暮らしとは何かを見つめ、健康との関わりについて学ぶ。地域・在宅看護の概念と実践の場、対象、役割を理解する。

地域の健康に関するニーズは社会情勢によって変動し、地域によっても差がある。超高齢社会の一方で少子社会のわが国は社会全体で支える介護へと変化し、地域共生社会の実現をめざしている。そのため、近年構築が推進される地域包括ケアシステムについて、概念や目的や構成要素、地域共生社会との関連を学ぶ。また、地域・在宅看護の対象を地域やライフステージ、健康レベルの多様性から理解する。さらに地域・在宅看護と関連が深い法制度について紹介し、今後の学習の導入を図る。

到達目標

1. 人々の暮らしと健康との関係性について説明できる。
2. 地域・在宅看護の概念、実践の場、対象、役割が説明できる。
3. 地域と地域を理解する考え方について説明できる。
4. 地域包括ケアシステムと地域共生社会について説明できる。
5. 地域・在宅看護の対象について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：単元の内容についてテキスト、参考図書等から予習し、事前課題に取り組む
事後学習：授業の内容について復習する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎		○	○	

回数	単元	内容	担当教員
1	授業ガイダンス 人々の暮らしの理解	授業ガイダンス 暮らしとは何か、暮らしと健康の関係、健康の多様性、健康をとらえる看護の視点	専任教員
2	地域・在宅看護の役割	地域・在宅看護の概念、実践の場、対象、求められる役割	専任教員
3	地域の理解	地域の定義、地域の多様性、システム理論	専任教員
4	地域包括ケアシステムと地域共生社会	地域包括ケアシステムとは、地域包括ケアシステムの構成要素、地域包括ケアシステムと「自助・互助・共助・公助」、地域包括ケアシステムと地域共生社会	専任教員
5	地域・在宅看護の対象（1）	地域による多様性、ライフステージによる多様性（小児・成人・老年期）	専任教員
6	地域・在宅看護の対象（2）	健康レベルの多様性、地域に暮らす疾患・障害を持つ人々	専任教員
7	在宅の対象者の理解と看護、 社会資源の概要	地域特性の理解と看護、対象者の理解と看護 活用できる社会資源の概要（介護保険・医療保険・障害者・難病の福祉施策）	専任教員
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論［1］ 地域・在宅看護の基盤 （医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
暮らしを支える看護援助論	講義	1単位	15時間	1年後期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

地域・在宅看護は人々が生活する地域で実践され、暮らしを支えることに他ならない。暮らしを支えるとはどのようなことか、看護師の役割は何か、看護実践のために必要な知識とは何か、地域・在宅看護の現状もとらえながら理解する。地域・在宅看護の対象者は、医療ケアを求めて入院中の患者とは異なり、ライフステージや健康レベル、健康へのニーズも多様であるため、それらに応じた看護を学ぶ。

また、地域での看護の提供方法は訪問看護だけでなく、通所サービスや短期入所サービス、施設サービス等の看護と広がっている。それぞれの看護の特徴と共に看々連携の重要性を理解する。さらに地域での多職種連携について学ぶ。

到達目標

1. 暮らしの環境を整える意義と看護について説明できる。
2. 広がる看護の対象と提供方法について説明できる。
3. ライフステージに応じた地域・在宅看護について説明できる。
4. 暮らしにおけるリスクと災害を含めたリスク管理について説明できる。
5. さまざまな場で実践される地域・在宅看護について説明できる。
6. 地域・在宅看護における多職種連携について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：単元の内容についてテキスト、参考図書等から予習し、事前課題に取り組む
事後学習：授業の内容について復習する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		◎	○	

回数	単元	内容	担当教員
1	暮らしを支える地域・在宅看護	暮らしを支える看護とは、暮らしの環境を整える看護、環境を整える意義 看護師に求められるもの	専任教員
2	広がる看護の対象と提供方法	健康に対する人々のニーズ、看護実践方法の広がり、健康ニーズにこたえる看護	専任教員
3	地域でのライフステージに応じた看護	ライフステージと人々の暮らし、ライフステージによる健康課題と予防 疾病とライフステージ、ライフステージ別の看護	専任教員
4	地域での暮らしにおけるリスク	暮らしにおけるリスク、リスクの種類、安全に暮らすための援助	専任教員
5	地域での災害対策	現代の災害、災害が暮らしに与える影響、地域・在宅看護と災害対策	専任教員
6	さまざまな地域・在宅看護実践の場	さまざまな場や職種で支える地域の暮らし、おもな地域・在宅看護実践の場	専任教員
7	地域・在宅看護での多職種連携	多職種連携の意義、医療職との連携、福祉職との連携、介護支援専門員との連携 多職種連携のためのネットワークづくり	専任教員
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 （医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
家族看護論	講義	1単位	15時間	2年前期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

地域・在宅看護は療養者だけでなく、家族全体を対象とする。家族は社会の最小単位の集団で、養育や介護、扶養、精神的な支え合いを行う重要な役割を持つ。傷病によって療養者に身体的苦痛や精神的ショック、生活様式の変更などが起こるが、家族にも影響を及ぼし機能不全に陥ることもある。

本科目ではわが国の家族の現状をとらえ、家族の変遷や多様化・個人化を理解する。家族の発達と課題、システム、意思決定支援について理解し、家族への支援を具体的に学ぶ。また、介護が家族に与える影響を理解し、療養のサポート者としてのみ家族を見ることのないようにする。依然、家族介護の負担の大きさは大きな社会問題のため、多様なサービスを活用するレスパイトケアや近隣住民のサポートについて理解する。さらに家族のアセスメント、家族間の調整、家族のライフステージに応じた看護、家族での看取りを支える看護について学ぶ。

到達目標

1. わが国の家族の現状と変遷について設明できる。
2. 家族の発達課題、家族システム、意思決定支援について設明できる。
3. 介護が家族に与える影響とレスパイトケアについて設明できる。
4. 療養者のライフステージに応じた家族看護について設明できる。
5. 家族のアセスメント、危機への支援、家族間の調整看護について設明できる。
6. 家族の看取りを支える看護について設明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：単元の内容についてテキスト、参考図書等から予習し、事前課題に取り組む
事後学習：授業の内容について復習する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎		○	○	

回数	単元	内容	担当教員
1	授業ガイダンス 家族の理解	授業ガイダンス わが国の家族の現状（世帯、婚姻、介護の視点から）	専任教員
2	わが国の家族の変遷	家族形態の変化、世帯の変化、家族の多様化と個人化	専任教員
3	地域・在宅看護の対象としての家族	家族の発達と課題、家族システム、家族の意思決定支援	専任教員
4	地域での家族への看護	家族看護とは、家族を支援する関わり、看護師の基本的姿勢、介護が家族に与える影響、介護疲労とレスパイトケア	専任教員
5	療養者のライフステージに応じた家族看護	小児・成人・老年期の療養者を介護する家族への看護	専任教員
6	家族を支える看護	家族のアセスメント、危機にある家族の支援、家族間の調整	専任教員
7	家族による看取り	終末期の療養者を支える家族の問題、看取りを支える看護、グリーフケア	専任教員
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論［1］　地域・在宅看護の基盤　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論［2］　地域・在宅看護の実践　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
在宅看護概論	講義	1単位	15時間	2年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

1年次に地域の暮らしや健康との関連、暮らしを支えるために実践される多様な地域・在宅看護を学んだ。2年次はその中でも訪問看護の理解を深めていくが、そのためには根拠となる法制度の理解が不可欠で、介護保険制度と医療保険制度の運営のしくみや費用を学ぶ。介護保険制度では多種多様なサービスが、医療保険制度では種別の理解が学生には難しい面もあるが、これらを確実に理解することで、この後の「在宅看護論」と「在宅看護演習」につながり、臨地実習に有益と考える。
訪問看護に関しては利用の流れや必要書類等、所属する訪問看護ステーションの事など病院とは異なる部分を理解し、特性を理解する。また、ケアマネジメントによる社会資源の活用やアドバンス ケア プランニングの考えについて学ぶ。さらに実際に在宅で使用される福祉用具に触れ、理解を深める。

到達目標

1. 介護保険制度の歩みとしくみ、利用の手続き、主なサービスついて説明できる。
2. わが国の医療保険制度の特徴、種類、しくみについて説明できる。
3. 訪問看護の概念、適応保険、利用の流れ、提供される援助について説明できる。
4. 訪問看護ステーションの設置基準と管理者、人員、所属できる職種について説明できる。
5. ケアマネジメントと社会資源の活用について説明できる。
6. アドバンス ケア プランニングの概念と訪問看護・ケアマネジメントでの取り組みについて説明できる。
7. 在宅で活用される福祉用具について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：単元の内容についてテキスト、参考図書等から予習し、事前課題に取り組む
事後学習：授業の内容について復習する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		○	◎	

回数	単元	内容	担当教員
1	授業ガイダンス 介護保険制度	授業ガイダンス、介護保険制度の歩み、保険者と被保険者、利用の手続き、自己負担 主なサービス、サービス担当者会議	非常勤講師
2	医療保険制度	国民皆保険制度、医療保険制度の種類、自己負担、保険診療のしくみ 高額療養費制度	非常勤講師
3	訪問看護制度	訪問看護とは、訪問看護の利用保険・費用、利用の流れ、提供される援助 訪問看護記録	非常勤講師
4	訪問看護ステーション	訪問看護ステーションの設置基準、管理者、人員、所属できる職種 訪問看護の質の向上に向けて	非常勤講師
5	ケアマネジメントと社会資源の活用	マネジメントとは、マネジメントの要素・機能・過程、社会資源の活用 介護保険におけるケアマネジメント	非常勤講師
6	アドバンス ケア プランニング	アドバンス ケア プランニングとは、訪問看護・ケアマネジメントでの取り組み	非常勤講師
7	福祉用具の活用	福祉用具の実際、福祉用具の特徴、利用の流れ	非常勤講師
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論[1]　地域・在宅看護の基盤　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論[2]　地域・在宅看護の実践　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
在宅看護援助論	講義 演習	1単位	30時間	2年通年	非常勤講師・専任教員
実務経験のある教員による科目					

授業概要

訪問看護は居宅で実践されるため、そのための心構えや望ましいコミュニケーション、接遇・マナーについて、演習（ロールプレイ）を通して学び、訪問看護を具体的にイメージする。また、人々の暮らしの場で看護することの意味を考える。在宅療養では起こり得るリスクも病院とは異なるため、違いを踏まえた上で具体的マネジメントについて学ぶ。

在宅での援助技術には、生活援助と医療ケアがある。基本的考えは病院看護と同じだが、生活援助では介護保険や障害福祉の介護用具や家庭にある物品を活用して、療養環境に配慮してライフスタイルを尊重しながら実施する。医療ケアは在宅では看護師だけでなく本人・家族も医療機器の取り扱いや消耗品の手配、緊急時の対処を行うため、セルフケア自立に向けての指導や在宅での医療ケアの特徴について具体的に理解する。

ここではセルフケアに関する援助全般とそれが障害され、医療ケアを要する状況になった場合についても学ぶ。さらに認知症や重症事例、障害者、医療ケア児への看護の特徴と活用できる社会資源について学ぶ。

到達目標

1. 訪問看護での望ましいコミュニケーション、接遇・マナーについて説明できる。
2. 療養中のリスクとマネジメントについて説明できる。
3. 在宅での食事・排泄・清潔援助と福祉用具について説明できる。
4. 在宅での医療ケアと訪問看護について説明できる。
（経管栄養、中心静脈栄養、ストーマ、褥瘡ケア、与薬管理、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法）
5. 訪問看護での多職種連携・多職種協働について説明できる。
6.医療ケアが必要な療養者への訪問看護について説明できる。
7.認知症高齢者への訪問看護と社会資源について説明できる。
8.重症事例への訪問看護と社会資源について説明できる。
9.障害者（児）への訪問看護と社会資源について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：単元の内容についてテキスト、参考図書等から予習し、事前課題に取り組む。
事後学習：授業の内容について復習する。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		◎	○	

回数	単元	内容	担当教員
1	在宅看護の心構え	在宅療養への理解、パートナーシップを築く、コミュニケーションの重要性 望ましい接遇・マナー	専任教員
2	訪問看護演習	デモンストレーション、演習（ロールプレイ）、望ましい在宅看護での接遇とは	専任教員
3	在宅看護でのリスクマネジメント	療養中のリスクと要因、リスクマネジメント、療養環境のアセスメントと安全な療養環境の整備	専任教員
4	在宅での援助技術(1) 食事・嚥下、経管栄養	食生活・嚥下のアセスメント、誤嚥予防、経管栄養、中心静脈栄養	専任教員
5	在宅での援助技術(2) 排泄	排便・排尿への援助、居宅で使用される排泄用具とサービスの活用 ストーマ（パウチの支給含む）	専任教員
6	在宅での援助技術(3) 清潔、褥瘡予防、与薬	入浴に関する福祉用具、皮膚トラブルとスキンケア、褥瘡予防、褥瘡の発生要因のアセスメント、望ましい姿勢と体位、褥瘡ケア、在宅での与薬管理	専任教員
7	在宅での援助技術(4) 在宅酸素療法（HOT）	在宅酸素療養（HOT）の目的、対象者、保険適応基準、機器の自己管理 トラブルと対処、消耗品（酸素カニューラ）の手配	専任教員
8	在宅での援助技術(5) 在宅人工呼吸療法（HMV）	NPPVとTPPV、それぞれの対象者、気管カニューレの管理、痰吸引、トラブルと対処、 医療機器の管理と操作指導、災害への備え	専任教員
9	地域共生社会のための 多職種連携・多職種協働	地域で活動する多職種、多職種連携の意義と具体的方策、連携・協働における看護師 の役割、地域共生社会とは	非常勤講師
10	訪問看護と多他職種連携	医師との連携、ケアマネジャーとの連携、介護職との連携、行政・保険師との連携	非常勤講師
11	医療ケアが必要な療養者へ の訪問看護（胃ろう等）	セルフケア能力の向上をめざして、トラブルへの対応、医療物品の確保 特別訪問看護指示書	非常勤講師
12	認知症高齢者への訪問看護	認知症高齢者の特徴、認知症高齢者を支える社会資源、訪問看護の特徴 高齢者の虐待防止、成年後見制度	非常勤講師
13	重症事例への訪問看護 （ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病・末期癌等）	重症事例への療養者の訪問看護、難病・癌末期の療養者が活用できる社会資源	非常勤講師
14	障害者への訪問看護	障害者手帳、障害者総合支援法、訪問看護の特徴	非常勤講師
15	医療ケア児への訪問看護	増加する医療ケア児、医療ケア児の訪問看護の特徴	非常勤講師

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論［2］　地域・在宅看護の実践　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
在宅看護演習	講義 演習	1単位	30時間	2年後期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

訪問看護は在宅療養を開始する前の移行支援から関わり、療養開始期から慢性期、終末期の看取りまでの幅広い看護を行う。様々なライフステージ、健康レベル、家族・生活背景はあるが、療養者と家族の尊厳を守り、地域でどう過ごしたいかを尊重することや社会資源を活用して多職種と協働して生活全体を支えることは共通している。

本科目では在宅療養の準備期から終末期までの各期の看護について具体的に学ぶ。脳卒中とがん末期の事例を読み、行われている訪問看護のポイントや活用されている社会資源について理解する。また、在宅での看護過程展開のポイントについて学び、ALSで経口摂取が困難で胃瘻造設した療養者の事例で、看護過程展開（情報整理、観察計画立案、在宅療養マップ作成）を行う。

到達目標

1. 在宅療養各期の看護について説明できる。
2. 脳卒中療養者の訪問看護のポイントと活用できる社会資源について説明できる。
3. がん末期療養者の訪問看護のポイントと活用できる社会資源について説明できる。
4. 在宅での看護過程展開のポイントが説明できる。
5. 事例での看護過程展開ができる。（情報整理、観察計画立案、在宅療養マップ作成）

事前学習・事後学習

事前学習：単元の内容についてテキスト、参考図書等から予習し、事前課題に取り組む。
事後学習：授業の内容について復習する。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○			○	

回数	単元	内容	担当教員
1	授業ガイダンス 在宅療養各期の看護（１）	授業ガイダンス 健康な時期の看護、在宅療養の準備期・移行期の看護	専任教員
2	在宅療養各期の看護(2)	在宅療養の安定期・急性増悪期の看護	専任教員
3	在宅療養各期の看護(3)	在宅療養の終末期の看護（グリーフケア含む）、訪問看護終了時の看護	専任教員
4	脳卒中療養者の在宅看護(1)	脳卒中の後遺症、居宅の環境整備、訪問看護のポイント、活用できる社会資源	専任教員
5	脳卒中療養者の在宅看護(2)	事例を読む	専任教員
6	がん末期療養者の在宅看護(1)	トータルペイン、ペインマネジメント、麻薬の管理・副作用、退院前カンファレンス、 終末期前期（退院後の訪問開始）・中期（安定期）の看護、活用できる社会資源	専任教員
7	がん末期療養者の在宅看護(2)	終末期後期（終末期・臨死期）の看護、臨死期の立会い、死亡判定と死亡診断書、 グリーフケア、活用できる社会資源	専任教員
8	がん末期療養者の在宅看護(3)	事例を読む	専任教員
9	在宅での看護過程展開のポイント(1)	療養環境のアセスメント、家族関係・介護力のアセスメント、ニーズのとらえ方 情報収集のポイント、	専任教員
10	在宅での看護過程展開のポイント(2)	療養上の問題、看護計画、ケアプランとの整合性、多職種の連携	専任教員
11	ALS療養者の看護	筋萎縮性側索硬化症（ALS）療養者の状況、家族の介護負担、セルフケア援助、嚥下 困難・構音障害・呼吸困難への援助、延命処置についての意思決定、不安の緩和	専任教員
12	看護過程展開(1)	事例紹介（ALS事例）、情報整理、観察計画立案	専任教員
13	看護過程展開(2)	療養上の問題の明確化、在宅療養マップの作成	専任教員
14	看護過程展開(3)	在宅療養マップ作成	専任教員
15	看護過程展開(4) 地域・在宅看護の展望	看護過程展開発表会、まとめ、地域・在宅看護の展望（各地の取り組み例） ＊看護過程展開レポートは提出	専任教員

評価	客観式試験と提出レポートの合計（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論[1]　地域・在宅看護の基盤　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論[2]　地域・在宅看護の実践　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
成人看護学概論	講義 演習	1単位	30時間	1年後期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

成人期は人生のライフサイクルの中で身体的、精神的に安定し、社会的には大きな役割や責任を担う時期である。青年期から向老期まで発達段階を経る中で、ライフイベントも多く、生活を営み、仕事を持ち働き、社会的責任も大きくなり、成人期特有の健康問題も生じる。成人期にある対象の健康レベルに応じた主要な理論や概念を学ぶと共に、対象をとりまく環境としての生活と健康を守り育むシステムの保健・医療・福祉の施策や背景、グローバル社会における健康問題の違いについて学修する。

到達目標

1. 成人期のライフイベントが生活に及ぼす影響について説明できる
2. 成人期の特徴と特有の健康問題について説明できる
3. 人期の健康レベルに応じた看護に必要な概念や理論について説明できる

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎	○		◎	

回数	単元	内容	担当教員
1	成人看護学とは	授業ガイダンス 成人期にある人とは？（ライフサイクルから見た成人の成長発達の特徴）GW	専任教員
2	成人期と生活	成人期にある人の生活の特徴（成人期の身体的、精神的、社会的特徴） 成人期にある人の日常生活の共通性と多様性	専任教員
3	成人期の発達と健康	成人各期の発達と健康（GW発表） （健康レベル、健康保健、成人各期の健康問題）	専任教員
4	健康障害を持つ人の経過と特徴	健康障害の急性期、回復期（リハビリテーション期）、維持期、終末期の特徴	専任教員
5	成人期にある人へのケアのための概念・理論①	成人期の学習の特徴と看護（アンドラゴジーモデル）	専任教員
6	成人期にある人へのケアのための概念・理論②	アドヒアランス、トランスセオリティカルモデル、 病みの軌跡、自己効力感	専任教員
7	成人期にある人へのケアのための概念・理論③	危機理論、障害受容、セルフケア理論、ストレスとコーピング	専任教員
8	健康問題に影響する因子①	生活習慣、ライフスタイルと健康問題、災害時の看護について	専任教員
9	健康問題に影響する因子②	ストレスと健康問題	専任教員
10	健康問題に影響する因子③	職業と健康問題	専任教員
11	ヘルスプロモーション	成人期のヘルスプロモーション	専任教員
12	成人期における終末期看護	成人期で人生の最後を迎える対象の看護について	専任教員
13	世界における成人期の健康問題	アジア　ヨーロッパ　アメリカ	専任教員
14	グローバル社会における健康問題の違い	地域における健康問題の違い	専任教員
15	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔1〕 成人看護学総論 （医学書院）
参考図書等	国民衛生の動向
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
成人看護学急性期援助論	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	非常勤講師・専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

急性期看護の概念および特徴を理解し、周手術期および急性状況にある患者と家族の看護について学ぶ。成人期にある人とその家族の発達段階、身体的、心理的、社会的な特徴を総合的に理解し、周手術期の対象の術前・中・後・回復期を通して、身体侵襲の予測、苦痛緩和、社会生活への適応に向けた看護実践のための基礎的知識を修得する。また、急性状況にある患者への看護援助を行うための基本的な問題解決過程と技術を学修する。

到達目標

1. 急性期にある対象者の健康問題とそれが及ぼす身体的・精神的・社会的側面への影響について説明できる
2. 急性期にある対象者及び家族に対する看護についてエビデンスに基づき説明できる
3. 急性期にある対象者及び家族に対する自己決定や倫理的側面について説明できる
4. 周手術期の特徴及び看護の役割について説明できる
5. 周手術期にある患者への看護援助を行うための基本的技術を実践することができる
6. 治療の現状を理解し、必要な看護援助を説明することができる

事前学習・事後学習

事前学習:該当箇所について調べて授業に臨む
事後学習:当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎			

回数	単元	内容	担当教員
1	急性期にある対象の看護	急性期看護の特徴、周手術期における看護援助(術前) 手術・生体侵襲、術前アセスメント 急性の状況にある人のアセスメント(家族ケア含む)	専任教員
2	周手術期看護①	クリティカルケアの基本概念、理論	非常勤講師
3	周手術期看護②	周手術期における看護援助(術中・術直後) 麻酔が及ぼす影響、術後モニタリング、術後合併症予防と発症時の援助	専任教員
4	周手術期看護③	周手術期における看護援助(術後・回復期)、術後合併症と発症時の援助 呼吸器合併症、循環器合併症、消化器合併症、早期離床	専任教員
5	周手術期看護④	周手術期における看護援助(術後・回復期) 術後感染/縫合不全/肺血栓塞栓症・深部静脈血栓、術後せん妄、	専任教員
6	周手術期看護⑤	酸塩基平衡/各種ドレーンの管理と観察/創傷処置、術後の継続看護、退院調整	専任教員
7	消化吸収機能障害患者の看護	胃切除術を受ける患者の看護 胃切除術、消化管運動機能障害のリスク	専任教員
8	循環機能障害患者の看護①	心機能に障害を受けている患者の看護 血管内治療(PCI)バイパス、活動耐性低下、心臓リハビリテーション	専任教員
9	循環機能障害患者の看護②	演習:循環器合併症予防と発症時の援助 循環のモニタリング(モニター心電図)、末梢循環促進ケア	専任教員
10	排泄/生殖器機能障害患者の看護	膀胱、前立腺、乳房切除術を受ける患者の看護 膀胱癌部分切除術、前立腺全摘出術、乳房切除術	専任教員
11	脳神経障害患者の看護	開頭術を受ける患者の看護 血管内治療(コイル術、r－tpなど)	専任教員
12	呼吸機能障害患者の看護①	肺切除を受ける患者の看護 肺切除術	専任教員
13	呼吸機能障害患者の看護②	演習:呼吸器合併症予防と発症時の援助 呼吸訓練、酸素療法、吸引など	専任教員
14	救急医療における看護	救急外来・集中治療室における看護(ACLS)、関係法令	専任教員
15	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験(伊藤:50点、専任教員:50点)
テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[2]　呼吸器　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[3]　循環器　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[5]　消化器　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[7]　脳・神経　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[8]　腎・泌尿器　(医学書院) 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論　(医学書院) 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　(医学書院) 系統看護学講座　別巻　救急看護学　(医学書院) 系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学　(医学書院)
参考図書等	授業中の配布資料
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
成人看護学急性期演習	講義 演習	1単位	30時間	2年通年	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

周手術期の看護を中心に、手術侵襲からの回復を促す援助に対する看護について学修する。成人急性期援助論で修得した知識を活用して、　事例を用いて看護過程展開を行い、対象の健康回復に必要な知識および状況に応じた援助方法及び家族に対する看護について学修する。また、急性の状況にある対象者へ看護援助を行うための基本的技術を修得する。看護の思考過程にそってシミュレーションを用いながら臨地に即した状況で具体的に学修する。

到達目標

1. 急性期にある対象者の健康問題とそれが及ぼす身体的・精神的・社会的側面への影響について説明できる
2. 急性期にある対象者及び家族に対する看護について根拠を示して説明できる
3. 急性期にある対象者への看護の思考プロセスとスキルを習得する
4. 急性期にある対象者及び家族に対する倫理的側面を説明できる
5. 急性期にある対象者及び家族に侵襲からの回復を促す援助について実践できる

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所について調べて授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎			

回数	単元	内容	担当教員
1	周手術期にある患者の看護過程 胃がん①	事例提示：全身麻酔下で胃切除患者を受ける患者 情報整理、アセスメント（個人ワーク）	専任教員
2	胃切除術を受ける患者の看護②	アセスメント（個人ワーク）	専任教員
3	胃切除術を受ける患者の看護③ 関連図・看護問題の明確化	紙上事例についてアセスメントをもとに関連図作成、看護問題抽出（グループワーク）	専任教員
4	胃切除術を受ける患者の看護④ 看護計画立案	看護計画立案、発表（グループワーク）	専任教員
5	胃切除術を受ける患者の看護⑤ 看護計画の実施・評価	看護計画立案に基づいた看護援助を実施し評価を行う 胃切除術直後のフィジカルアセスメント（シミュレーション）	専任教員
6	白血病の事例①	事例提示・情報整理・アセスメント	専任教員
7	白血病の事例②	アセスメント　（グループワーク）	専任教員
8	白血病の事例③	看護診断の明確化（グループワーク・発表）	専任教員
9	心筋梗塞の事例①	事例提示・情報整理・アセスメント	専任教員
10	心筋梗塞の事例②	アセスメント　（グループワーク）	専任教員
11	心筋梗塞の事例③	看護診断の明確化（グループワーク・発表）	専任教員
12	乳がんの事例①	乳房切除術患者の事例提示・情報整理・アセスメント	専任教員
13	乳がんの事例②	アセスメント　（グループワーク）	専任教員
14	乳がんの事例③	看護診断の明確化（グループワーク・発表）	専任教員
15	まとめ	急性期にある成人の看護振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[4]　血液・造血器　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[3]　循環器　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[5]　消化器　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[9]　女性生殖器　（医学書院） 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論　（医学書院） 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　（医学書院） 系統看護学講座　別巻　救急看護学　（医学書院） 系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
成人看護学慢性期援助論	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

人体の構造と機能学、健康障害と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、成人看護学概論と関連させながら、健康障害の経過としての慢性期(回復期を含む)の概念および特徴について理解し、慢性期にある成人期の対象者に見られる主な健康障害への援助方法や主要な症状についての看護アプローチの方法について学修する。
慢性期は生活の再構築やセルフマネジメントへの支援が不可欠なことから、対象者の身体的・精神的・社会的変化を考慮しながら対象への看護アプローチの方法についての思考プロセスを修得する。看護における臨床推論や症状マネジメントの考え方について演習を通して学ぶ。

到達目標

1. 慢性期にある対象者の健康問題とそれが及ぼす身体的・精神的・社会的側面への影響について説明できる
2. 慢性期にある対象者及び家族に対する看護について根拠を示して説明できる
3. 慢性期にある対象者及び家族に対する自己決定や倫理的側面について説明できる
4. 慢性期にある対象者及び家族にセルフマネジメントを促す援助について説明できる
5. 疾患によって生じる健康課題への支援方法や不快症状のマネジメント方法について説明できる

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎	○		○	

回数	単元	内容	担当教員
1	回復期・慢性期看護とは 健康管理の必要な対象への アプローチ	授業ガイダンス 慢性期(回復期)とは/慢性期疾患の概念/セルフマネジメントとは セルフケアの低下と再獲得/対処能力に影響する因子/病みの軌跡 健康管理に伴う理念・概念の理解：セルフケア・セルフマネジメントを促進する支援	専任教員
2	症状マネジメントの考え方	臨床推論と症状マネジメント	専任教員
3	慢性期(回復期)にある対象と 家族への看護	慢性期(回復期)にある対象の理解 （身体的・心理的・社会的特徴と家族の特徴治療や療養の継続的な支援と連携）	専任教員
4	対象と家族の倫理的側面と 自己決定	回復期・慢性期におこる倫理的問題と自己決定/意思決定支援	専任教員
5	脳・神経障害をもつ対象の看護 (パーキンソン病)	講義：脳神経障害における運動障害への看護	専任教員
6	脳・神経障害と随伴症状	演習：脳神経障害に特徴的な症状とマネジメント	専任教員
7	循環機能障害のある対象の看護 （心不全）	講義：心不全のある人への看護	専任教員
8	循環機能障害と随伴症状	演習：心不全に特徴的な症状とマネジメント 浮腫・息切れの評価とマネジメント	専任教員
9	がんと共に生きる①	講義：がんと共に生きる人への看護 化学療法と看護	専任教員
10	がんと共に生きる②	演習：がんと共に生きるセルフマネジメント支援	専任教員
11	造血機能障害のある対象の看護 （悪性リンパ腫）	講義：造血機能障害のある人への看護	専任教員
12	造血機能障害と随伴症状	演習：造血機能障害に特徴的な症状とマネジメント 悪心・嘔吐、発熱の評価とマネジメント	専任教員
13	慢性腎不全と共に生きる①	講義：慢性腎不全と共に生きる人への看護	専任教員
14	慢性腎不全と共に生きる②	演習：慢性腎不全と共に生きるセルフマネジメント支援	専任教員
15	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験(70点）、課題レポート(30点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[3]　循環器　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[4]　血液・造血器　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[7]　脳・神経　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[8]　腎・泌尿器　（医学書院） 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　（医学書院） 系統看護学講座　別巻　がん看護学　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
成人看護学慢性期演習	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

成人看護学概論、成人看護学慢性期援助論の学修と関連させながら、慢性の経過をたどる健康障害の慢性期(回復期を含む)や機能障害を有する対象及びその家族に対する看護援助を学ぶ。ここでは呼吸機能障害、消化機能障害、代謝機能障害、腎機能障害、高次脳機能障害の事例から、健康障害を持つ人とその家族の援助に必要な看護について、看護の思考過程にそってシミュレーションを用いながら臨地に即した状況で具体的に学修する。

到達目標

1. 慢性期にある対象者の健康問題とそれが及ぼす身体的・精神的・社会的側面への影響について説明できる
2. 慢性期にある対象者及び家族に対する看護について説明できる
3. 慢性期にある対象者への看護の思考プロセスとスキルを習得する
4. 慢性期にある対象者及び家族に対する倫理的側面を説明できる
5. 慢性期にある対象者及び家族にセルフマネージメントを促す援助について説明できる

事前学習・事後学習

事前学習:該当箇所について調べて授業に臨む
事後学習:当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎			

回数	単元	内容	担当教員
1	慢性期にある対象と家族への看護 (呼吸機能障害①)	授業ガイダンス 呼吸機能障害のある人への看護(慢性閉塞性肺疾患)	専任教員
2	慢性期にある対象と家族への看護 (呼吸機能障害②)	演習:呼吸機能訓練・ポジショニング	専任教員
3	大腸がんの事例①	ストーマ増設でボディイメージの変化に対する看護/アセスメント	専任教員
4	大腸がんの事例②	看護診断・介入・ストーマケア	専任教員
5	大腸がんの事例③	ボディイメージの変化に対する看護(シミュレーション)	専任教員
6	栄養代謝障害のある対象の看護①	栄養代謝障害のある人のセルフケア支援(糖尿病)/アセスメント	専任教員
7	栄養代謝障害のある対象の看護②	問題の明確化　目標設定	専任教員
8	栄養代謝障害のある対象の看護③	計画立案　指導案作成(GW)	専任教員
9	栄養代謝障害のある対象の看護④	実施(シミュレーション①)/評価	専任教員
10	栄養代謝障害のある対象の看護⑤	実施(シミュレーション②)/評価	専任教員
11	慢性腎不全の事例①	透析療法を受ける対象の看護/アセスメント	専任教員
12	慢性腎不全の事例②	透析療法を受ける対象の看護　プレゼンテーション(GW)	専任教員
13	高次脳機能障害のある人への看護	当事者と家族への支援(GW)	専任教員
14	感覚機能障害のある人への看護	視覚障害・聴覚障害のある人への支援(GW)	専任教員
15	まとめ	慢性期にある成人の看護振り返り	専任教員

評価	客観式試験(70点)、課題レポート(30点)
テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[5]　消化器　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[6]　内分泌・代謝　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[8]　腎・泌尿器　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[7]　脳・神経　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[13]　眼　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[14]　耳鼻咽喉　(医学書院) 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　(医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
成人看護学終末期援助論	講義 演習	1単位	30時間	2年後期	専任教員

実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う

授業概要

我が国はこれまでにない多死社会を迎えている。医療機関や施設あるいは居宅においてさまざまな状況にある人々がどのような最期を迎えるか、誰がどのように終末期にある対象に対して自分らしく生きることを支援していくかは大きな課題である。終末期にある対象や家族の看護について看護職者は対象の意思決定にどのように関わり、支援したらよいのかエンドオブライフにおける生命倫理やケアに活かす理論など、根拠に基づく看護実践に取り組めるように学修する。

到達目標

1. 終末期における日本人の死のとらえかたについて説明できる
2. 死の受容過程（理論）を説明できる
3. 患者の意思決定支援について説明できる
4. 臨死期の身体的ケアについて説明できる
5. グリーフケアについて説明できる

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所について調べて授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	◎			

回数	単元	内容	担当教員
1	終末期とは 死の受容のプロセス	終末期とは、キュブラーロスの死の受容のプロセス 日本人の死のとらえ方（死生観）	専任教員
2	緩和ケア	緩和ケアとは、がん医療における緩和ケアの現状（海外と日本の違い） がん患者が抱える苦痛とQOL	専任教員
3	意思決定支援とコミュニケーション	がん医療における意思決定支援、意思決定を支える方法	専任教員
4	社会的ケア　スピリチュアルケア	社会的苦痛とは、ケアの方法、スピリチュアルペインとは	専任教員
5	臨死期のケア	がん終末期の症状と全身状態、臨死期、臨終後ケア エンゼルケア	専任教員
6	臨死期のケア	生命倫理とは、安楽死に関する倫理的問題	専任教員
7	身体症状とその治療・看護	身体症状、疼痛の治療と看護	専任教員
8	身体症状とその治療・看護	不安の治療と看護、抑うつの治療と看護	専任教員
9	事例（終末期にある肺がん患者）①	事例による看護過程①　肺がん患者の看護（アセスメント）	専任教員
10	事例（終末期にある肺がん患者）②	事例による看護過程②　肺がん患者の看護〈看護診断・目標設定・看護計画）	専任教員
11	事例（終末期にある肺がん患者）③	事例による看護過程③　肺がん患者の看護〈実施〉シミュレーション	専任教員
12	事例（終末期にある肺がん患者）④	事例による看護過程④　肺がん患者の看護（評価）	専任教員
13	家族ケア	看護の対象としての家族	専任教員
14	臨床における振り返り	グリーフケア、デスカンファレンス	専任教員
15	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　別巻　緩和ケア　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学［2］　呼吸器　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
老年看護学概論	講義 演習	1単位	30時間	1年後期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

自己の高齢者観・倫理観を明らかにし、加齢に関連する諸概念と理論を学ぶことで、高齢者を身体的・心理的・社会的側面から統合的に理解し、高齢者の健康レベルに合わせた質の高い看護を提供するための基礎知識を修得する。また、老年看護学の対象者の成長と発達の過程、人口統計および社会構造の変化、災害時のニーズ、高齢者への保健・医療・福祉サービスの現状と課題を捉え、老年看護実践における専門的な看護者の役割と機能を学修する。

到達目標

1. 高齢者観や倫理観を振り返り、その重要性を理解する。
2. 高齢者看護において、応用可能な理論や概念枠組みについて説明できる。
3. 日本の人口統計や社会の変化を説明できる。
4. 高齢者を支える諸制度や資源について説明できる。
5. 高齢者の死生観を理解し、高齢者看護への応用を考えることができる。
6. 高齢者の災害時ニーズについて説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所について調べて授業に臨む。
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎	○	○	

回数	単元	内容	担当教員
1	「老い」とは何か	事前課題；自分がイメージする自分の老年期を描いて授業前に提出する ライフサイクルからみた老年期 「老いる」ということ 「老い」のイメージ 「老いを生きる」ということ 老年期の特徴と老年期の発達課題	専任教員
2	成長と発達過程からみた 高齢者看護	成長・発達過程からみた高齢者の特徴と課題 高齢者をどう見るか、高齢者の定義、 高齢者看護の定義と目的	専任教員
3	老化現象の理論・概念枠組み	老化現象を説明する生理的・心理的・社会的理論の概要	専任教員
4	高齢者体験①	高齢者体験実施、GWで体験をまとめる（ 分割 ）	専任教員
5	高齢者体験②	高齢者体験実施後学習内容を踏まえて発表する	専任教員
6	人口統計と社会構造の変化、 災害時の高齢者のニーズ	日本の高齢者を取り巻く人口統計・健康指標、災害時の高齢者のニーズ （近年の災害から）	専任教員
7	超高齢化社会の理解	事前課題：高齢者に関する気になる出来事をプレゼンテーションできるように まとめておく 超高齢化社会と社会保障・超高齢化社会の統計・ 高齢社会における保健医療福祉の動向・生活 療養の場における看護	専任教員
8	高齢者を支える諸制度と 将来展望	高齢者を支える諸制度と将来	専任教員
9	高齢者への心理的支援	高齢者を対象とした心理的ケア,レミニッセンスの意義、介入方法	専任教員
10	高齢者看護と倫理	高齢者看護の基本 理論 倫理,倫理原則、高齢者をめぐる倫理問題	専任教員
11	権利擁護	高齢者の権利擁護 擁護のための制度	専任教員
12	高齢者のヘルス プロモーション	高齢者のヘルスプロモーション（高齢者の健康づくり）高齢者の健康づくり 介護予防とフレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドローム	専任教員
13	高齢者と死生観	事前学習：エンドオブライフケアを予習して、自分はどうありたいか考えておく エンドオブライフケアとは 死生観 意思決定の支援	専任教員
14	世界の高齢者の 現状（生活）と課題	事前課題：授業テーマに基づき担当する地域についてグループメンバーと 学習しプレゼンテーションできるようにまとめておく ヨーロッパの高齢者の生活と課題、 中国の高齢者の生活と課題、 日本の高齢者の生活と課題	専任教員
15	まとめ	授業のまとめ	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野 地域在宅看護論［1］ 地域・在宅看護の基盤 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野 地域在宅看護論［2］ 地域・在宅看護の実践 （医学書院） 系統看護学講座 別巻 緩和ケア （医学書院） 国民衛生の動向 （厚生統計協会）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
老年看護学援助論	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

加齢に伴う身体、心理、社会的変化の理解を基盤として、高齢者の生活とヘルスプロモーションについて理解し、健康生活を支援する基礎的知識・技術を学修する。具体的には高齢者の残存機能を活かした食事・排泄・清潔・活動と休息・移動などの生活援助技術、安全に療養できる環境を整える技術等、高齢者の個別性を尊重した効果的な看護を提供するための知識と技術を修得する。

到達目標

1. 高齢者を対象としたヘルスプロモーションの重要性を理解し、看護介入方法を考えることができる
2. 高齢者に多い症状と健康障害、薬物・手術療法時の看護について説明できる
3. 高齢者の食生活を支える看護技術の基本を理解し実施できる
4. 嚥下障害がある高齢者の食事介助が実施できる
5. 高齢者の排泄を支える看護技術の基本を理解し実施できる
6. 高齢者の清潔と衣生活を支える看護技術の基本を理解し実施できる
7. 高齢者の活動と休息を支える看護技術の基本を理解し実施できる
8. 高齢者の歩行と移動を支える看護技術の基本を理解し実施できる

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎			

回数	単元	内容	担当教員
1	高齢者看護の目標と高齢者を取り巻く社会	授業ガイダンス 高齢者を対象とした看護の目標　日常生活動作能力	専任教員
2	高齢者総合機能評価	高齢者認知機能評価 日常生活動作能力、高齢者認知機能評価スケール	専任教員
3	高齢者のヘルスプロモーション	高齢者を対象としたヘルスプロモーション（生活習慣病予防、転倒予防など）	専任教員
4	高齢者に特徴的な症状と健康障害	高齢者によくみられる症状や疾患 （脳血管障害、パーキンソン病、心不全、肺炎、水・電解質異常等）	専任教員
5	高齢者に特徴的な症状・健康障害を支える看護	高齢者によくみられる症状や健康障害の看護 （グループワーク）	専任教員
6	薬物療法、手術療法、診察・検査	薬物療法、手術療法、診察・検査を受ける高齢者の看護 （グループワーク）	専任教員
7	高齢者の生活を支える看護	高齢者とのコミュニケーション、食生活、住まい、経済状態など	専任教員
8	食生活を支える看護技術	栄養のアセスメント、摂食・嚥下機能評価、食事に関する健康問題と看護ケア	専任教員
9	嚥下機能障害のある対象の理解と看護・評価	嚥下障害のある高齢者への看護 演習：嚥下障害の評価方法、聴診、触診、嚥下評価・栄養評価	専任教員
10	嚥下障害の人の食事体験	演習：嚥下障害のある人の食事について考える とろみ剤、嚥下食の試食と食事介助方法	専任教員
11	排泄を支える看護技術	排泄機能のアセスメント、排泄に関する健康問題と看護ケア 演習：腰背・腹部罨法	専任教員
12	清潔・衣生活を支える看護技術	皮膚のアセスメントと清潔に関する健康問題とケア、高齢者の衣生活を支えるケア 演習：高齢者スーツを着用した高齢者役の学生に対して更衣の援助、 スキンテア（皮膚剥離）に対する援助	専任教員
13	活動と休息を支える看護技術	ADL・睡眠のアセスメント、活動の評価、高齢者の活動と休息に関する健康問題と看護ケア 演習：歩行介助	専任教員
14	高齢者看護の場とチームアプローチ	高齢者の療養を支えるチームの活動と多様な施設、医療機関における看護	専任教員
15	まとめ	授業のまとめ	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　老年看護学　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　老年看護 病態・疾患論　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
老年看護学演習	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

多様で複雑な健康問題を持ちながら生活する高齢者や、療養生活を送る高齢者に対するヘルスアセスメント技術、事例を用いて高齢者とその人を支える家族や支援者を対象とした適切な看護過程を展開する能力を修得する。シミュレーションにより高齢者の個別性を尊重し生活の質（QOL）を支える効果的な看護を提供するための知識と技術を修得する。

到達目標

1. 高齢者を対象としたヘルスアセスメント技術を理解し実施できる
2. 高齢者を対象とした入院時ケアについて（家族や支援者を含む）理解し説明できる
3. 大腿骨頸部骨折の事例を用いた看護過程が実施できる
4. 脳梗塞の事例を用いたICF分類に基づく看護が実施できる
5. 退院時ケアについて（家族や支援者を含む）理解し説明できる

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎		○	

回数	単元	内容	担当教員
1	オリエンテーション	オリエンテーション 加齢に伴う健康問題とヘルスアセスメント	専任教員
2	高齢者のヘルスアセスメント1	加齢変化を考慮したヘルスアセスメント、高齢者とのコミュニケーション	専任教員
3	高齢者のヘルスアセスメント2	加齢変化を考慮したヘルスアセスメント（シミュレーション）	専任教員
4	入院時の看護	入院時のアセスメントとケア（シミュレーション）	専任教員
5	事例による看護過程 大腿骨頸部骨折①	事例に基づく情報収集、分析解釈	専任教員
6	事例による看護過程 大腿骨頸部骨折②	問題の明確化	専任教員
7	事例による看護過程 大腿骨頸部骨折③	計画立案	専任教員
8	事例による看護過程 大腿骨頸部骨折④	実施　（体位変換、車椅子移乗、車椅子による移動支援、杖歩行（シミュレーション））	専任教員
9	事例による看護過程 大腿骨頸部骨折⑤	評価	専任教員
10	事例による看護過程 脳梗塞①	事例に基づく情報収集　ICF分類による	専任教員
11	事例による看護過程 脳梗塞②	生活機能（心身機能・構造、活動、参加）	専任教員
12	事例による看護過程 脳梗塞③	看護計画・実施　（リハビリテーションと看護）	専任教員
13	事例による看護過程 脳梗塞④	介入と評価、記録、報告	専任教員
14	退院を支援する看護	退院調整支援と保健医療福祉連携、退院時看護サマリー	専任教員
15	まとめ	授業のまとめ	専任教員

評価	演習評価（20点）、小テスト（30点）、客観式試験（50点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　老年看護学　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　老年看護 病態・疾患論　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
認知症看護論	講義 演習	1単位	15時間	1年後期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

高齢社会のなか2025年には認知症患者が700万人を超えるとされ、それを支える医療や地域、施策などの知識が医療者には必要になる。本科目では認知症者および介護家族へのケアの今日的課題について理解を深め、より良い認知症ケアおよび認知症者を支える共生社会構築への姿勢を学修する。具体的には認知症の理解、偏見、人権尊重、個別性を尊重したケア、介護家族へのケアの在り方などについて理解を深め、対象者のQOLを支えられるよう支援できる基礎的能力を修得する。
さらに、認知症者を取り巻く多職種連携、地域包括ケアシステムと共生社会についても学修する。

到達目標

1. 認知症者と取り巻く今日的課題について理解する
2. 認知症予防のケアについて説明できる
3. 認知症者の心理とニードについて理解し説明できる
4. 認知症者のアセスメントについて理解し説明できる
5. パーソンセンタードケアについて説明できる
6. 認知症者の家族介護者のケアについて理解し説明できる
7. 認知症者と支援する地域包括ケアシステムについて説明できる

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習： 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎			○	

回数	単元	内容	担当教員
1	授業ガイダンス 認知症者を取り巻く今日的課題	最新のデータおよび研究に基づいた認知症者を取り巻く今日的課題（患者数、認知症の種類、診断・治療、など）	非常勤講師
2	認知症予防のケア	生活習慣などのリスクファクター、運動、音楽、知的活動などからの認知症予防に効果的なケアアプローチ	非常勤講師
3	認知症者の心理とニード アセスメント	認知症者の心理の理解、認知症者の多様なニードに対するケア 認知症者とのコミュニケーション方法、身体的アセスメント、心理的アセスメント、社会経済的アセスメント、認知機能のアセスメント	非常勤講師
4	認知症ケアの実際①	レクリエーション活動（運動、音楽、美術、芸術など）、タクテイールケア レミニッセンス	非常勤講師
5	認知症ケアの実際②	レクリエーション活動（運動、音楽、美術、芸術など）、タクテイールケア レミニッセンス	非常勤講師
6	認知症者を介護する家族ケア	介護家族の背景、健康状態、介護者のアセスメントとケアニード、ケアについて	非常勤講師
7	認知症者と地域包括ケアシステム	介護家族の背景、健康状態、介護者のアセスメントとケアニード、ケアについて	非常勤講師
8	評価	まとめ	非常勤講師

評価	客観式試験（100点）
テキスト	認知症の人びとの看護 （医歯薬出版）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
小児看護学概論	講義 演習	1単位	15時間	2年前期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

小児期は養育者や環境の影響を受けて、心身ともに成長・発達を急速に遂げる時期ということ、および将来の人格形成上重要な時期ということを理解させたい。各発達期の形態的発達・機能的発達、認知・社会的発達の基本的知識を身につけるとともに、養育者との関係を理解して支援することの重要性を学ぶ。また、子どもは養育的環境で育まれる権利を有し、おとなとは同質ではないが同格の権利をもつ主体的存在であることを理解し小児看護倫理が実践できるとともに小児看護の特性を理解する。

到達目標

1. 小児と家族を取り巻く状況や小児関連統計について説明できる
2. 小児の成長発達の特徴、および各発達段階の生活について説明できる
3. 小児の権利、および倫理原則をふまえたｹｱについて述べることができる

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：ﾌﾟﾘﾝﾄ等復習を行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎	○		○	

回数	単元	内容	担当教員
1	小児看護の特徴と理念	授業ガイダンス 小児看護の目的、小児と家族の諸統計、小児看護の課題 国際的視点からみた小児の健康問題	専任教員
2	小児と家族を取り巻く状況	小児看護における倫理、児童福祉法、母子保健法、医療費の支援、予防接種、 学校保健、食育、子どもにとって家族とは	専任教員
3	子どもの成長・発達	小児期の発達段階の区分、成長・発達の一般的原則、成長・発達に影響する因子、 発達の評価	専任教員
4	新生児	形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達、養育および看護	専任教員
5	乳児	形態的特徴、身体生理の特徴、コミュニケーション機能、情緒・社会的機能、 養育および看護、遊びの支援	専任教員
6	幼児	形態的特徴、身体生理の特徴、コミュニケーション機能、情緒・社会的機能、 養育および看護、遊びの支援	専任教員
7	学童・思春期	形態的特徴、身体生理の特徴、不適応行動・症状、子どもを取り巻く諸環境、 養育および看護	専任教員
8	まとめ	まとめ	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　小児看護学[1]　小児看護学概論　小児臨床看護総論　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　小児看護学[2]　小児看護学各論　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
小児の健康障害と看護	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	非常勤講師・専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

状況に応じた小児と家族への援助、小児期に発生頻度の高い疾患についての発生因子とﾒｶﾆｽﾞﾑを理解し、健康障害をもつ子どもとその家族への関わり方について考えさせたい。小児期特有の特徴を理解し様々な発達段階の小児とその家族に対して、健康問題への取り組みと健康な成長発達のための援助や、母子関係の重要性から家族を含めた援助について理解する。健康障害による成長発達への影響を最小限にし、健康な成長発達が遂げられるよう、臨床の場で看護師の役割が実践できる能力を養う。

到達目標

1. 小児に特有な健康障害について理解できる
2. 小児とその家族に対する病期の経過と看護について説明できる
3. 虐待を受けている、またはその可能性のある子どもと家族への支援について理解できる。
4. 永続的な問題を持つ子どもと家族への看護について理解できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：当日の該当ﾃｰﾏに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎		○	

回数	単元	内容	担当教員
1	循環器疾患 腎・泌尿器疾患	先天性心疾患、川崎病、糸球体腎炎、ﾈﾌﾛｰｾﾞ症候群、尿路感染症	非常勤講師
2	免疫・ｱﾚﾙｷﾞｰ 呼吸器疾患	食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息、急性気管支炎、肺炎、クループ 症候群SLE	非常勤講師
3	神経疾患、運動器疾患 精神疾患	水頭症、二分脊椎、てんかん、熱性けいれん、脳性麻痺、先天性股関節脱臼、骨折、 発達障害、摂食障害	非常勤講師
4	消化器疾患	口唇・口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、腸重積症、鎖肛、先天性横隔膜ヘルニア、 ヒルシュスプルング病、急性乳幼児下痢症、胆道閉鎖症	非常勤講師
5	感染症	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、インフルエンザ、髄膜炎、百日咳、ポリオ、 咽頭結膜熱、	非常勤講師
6	血液・造血器疾患 悪性新生物	特発性血小板減少性紫斑病、白血病、血友病、神経芽腫、脳腫瘍	非常勤講師
7	病気・障害を持つ 子どもと家族の看護	病気・障害が子どもと家族に与える影響	専任教員
8	子どもの状況に 特徴づけられる看護①	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響	専任教員
9	子どもの状況に 特徴づけられる看護②	子どもの虐待を看護 外来における子どもと家族の看護	専任教員
10	子どもの状況に 特徴づけられる看護③	災害を受けた子どもと家族の看護 在宅療養中における子どもと家族の看護	専任教員
11	障害のある 子どもと家族の看護	障害のとらえ方、障害のある子ども・家族のニーズ、生じやすい健康問題、 子どもと家族の受容段階	専任教員
12	子どもにおける 疾病の経過と看護①	急性期にある子どもと家族の看護	専任教員
13	子どもにおける 疾病の経過と看護②	慢性期にある子どもと家族の看護	専任教員
14	子どもにおける 疾病の経過と看護③	終末期にある子どもと家族の看護	専任教員
15	子どもにおける 疾病の経過と看護④	周手術期にある子どもと家族の看護	専任教員

評価	客観式試験（専任教員：20点、秋原：20点、専任教員：60点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　小児看護学[1]　小児看護学概論　小児臨床看護総論　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　小児看護学[2]　小児看護学各論　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
小児看護学援助論	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

小児看護学概論の既習知識を受けて、一人ひとりの子どもの権利を擁護し、子どもに安全で安楽な技術を提供することについて考えるとともに、子どもを主体的存在として捉え、健康障がいをもつ子どもとその家族に対する援助技術の意義と方法を理解する。言語能力が未熟な小児への観察力を身につけ、検査・処置を受ける子どもと家族への看護や対象のﾆｰｽﾞに合わせた看護技術を習得する。また、生活経験の未熟さゆえ陥る不安や恐怖に対する、発達段階や状況に応じた関わり方を理解し看護実践能力の向上を図る。

到達目標

1.小児のヘルスアセスメントの方法を学び、基礎となる技術が理解できる。
2.小児に必要な看護技術について理解できる。
3.年齢や発達段階によっておこりやすい事故、必要な援助について理解できる。
4.ハイリスクの新生児と家族の看護の特徴が理解できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：当日の該当ﾃｰﾏに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎			

回数	単元	内容	担当教員
1	小児のヘルスアセスメント① アセスメントに必要な技術	授業ガイダンス コミュニケーション、バイタルサイン測定、身体計測	非常勤講師
2	小児のﾍﾙｽｱｾｽﾒﾝﾄ② 身体的ｱｾｽﾒﾝﾄ	子どものフィジカルアセスメント	非常勤講師
3	症状を示す子どもの看護①	不機嫌、啼泣、呼吸困難、便秘	非常勤講師
4	症状を示す子どもの看護②	けいれん、痛み、チアノーゼ	非常勤講師
5	症状を示す子どもの看護③	嘔吐、下痢、発熱、脱水	非常勤講師
6	症状を示す子どもの看護④	出血、貧血、ショック、意識障害	非常勤講師
7	症状を示す子どもの看護⑤	浮腫、発疹、黄疸	非常勤講師
8	検査・処置を受ける子どもの 看護①	子どもにとっての検査・処置、薬物動態と薬用量の決定、与薬	非常勤講師
9	検査・処置を受ける子どもの 看護②	輸液管理、抑制	非常勤講師
10	検査・処置を受ける子どもの 看護③	検体採取、罨法、経管栄養	非常勤講師
11	検査・処置を受ける子どもの 看護④	清潔、排泄、呼吸症状の緩和	非常勤講師
12	子どもの事故と看護①	子どもの事故の特徴、おもな事故・外傷と看護	非常勤講師
13	子どもの事故と看護②	救命処置	非常勤講師
14	ハイリスクの新生児と家族の 看護①	新生児メレナ、呼吸窮迫症候群、新生児黄疸、乳幼児突然死症候群 家族への看護	非常勤講師
15	ハイリスクの新生児と家族の 看護②	成長・発達を支える看護（保育器の取り扱い、保育器内の児のケア） 胎外生活への適応を支える看護	非常勤講師

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　小児看護学［1］ 小児看護学概論　小児臨床看護総論 （医学書院） 系統看護学講座　専門分野　小児看護学［2］ 小児看護学各論 （医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
小児看護学演習	講義 演習	1単位	30時間	2年後期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

小児期の健康障害は発達課題をもった子どもの生活に大いに影響することを理解し、子どもが子どもらしく存在できるよう支援することの重要性を学ぶ。そのためには「子どもが成長発達の中で病気かかっている」ことを知り、「病気の中で成長発達を遂げているのではない」ことの違いを理解する。そして、様々な状況にある子どもと家族への関わり手法を学び、子どもが本来もつ「生きる力」が発揮できるよう、看護師の役割が実践できる能力を養う。

到達目標

1. 乳児期の小児と家族に健康障害が与える影響について説明し、必要な看護を考えることができる。
2. 幼児期の小児と家族に健康障害が与える影響について説明し、必要な看護を考えることができる。
3. 学童期の小児と家族に健康障害が与える影響について説明し、必要な看護を考えることができる。
4. 医療を受ける子どもへの関わり方（ﾌﾟﾚﾊﾟﾚｰｼｮﾝ）について理解し、実践できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：当日の該当ﾃｰﾏに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎			

回数	単元	内容	担当教員
1	乳児期（7か月）の 小児と家族の看護①	急性胃腸炎で入院した小児と家族の看護 事例を用いてアセスメント	専任教員
2	乳児期（7か月）の 小児と家族の看護②	関連図作成:GW	専任教員
3	乳児期（7か月）の 小児と家族の看護③	問題の明確化、計画立案:GW	専任教員
4	乳児期（7か月）の 小児と家族の看護④	急性胃腸炎の子どもと関わる家族に対する感染防止について指導案作成：GW	専任教員
5	プレパレーション	プレパレーションとは、プレパレーション実施時の原則	専任教員
6	幼児期（4歳）の 小児と家族の看護①	気管支喘息で入院した小児と家族の看護 事例を用いてアセスメント	専任教員
7	幼児期（4歳）の 小児と家族の看護②	関連図作成：GW	専任教員
8	幼児期（4歳）の 小児と家族の看護③	問題の明確化、計画立案:GW	専任教員
9	幼児期（4歳）の 小児と家族の看護④	外来の場面やバイタルサイン測定時、点滴前の子どもへの声かけの方法について 指導案作成：GW	専任教員
10	学童期（小学2年生）の 小児と家族の看護①	ネフローゼ症候群で入院した小児と家族の看護 事例を用いてアセスメント	専任教員
11	学童期（小学2年生）の 小児と家族の看護②	関連図作成：GW	専任教員
12	学童期（小学2年生）の 小児と家族の看護③	問題の明確化、計画立案:GW	専任教員
13	学童期（小学2年生）の 小児と家族の看護④	腎生検前日の子どもへのプレパレーションについて指導案作成	専任教員
14	学童期（小学2年生）の 小児と家族の看護⑤	プレパレーション（ロールプレイ）実施	専任教員
15	まとめ	まとめ	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　小児看護学［1］ 小児看護学概論　小児臨床看護総論　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　小児看護学［2］ 小児看護学各論　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
母性看護学概論	講義	1単位	15時間	2年前期	専任教員

実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う

授業概要

ウィメンズヘルスの主要な概念を理解し，女性の身体的、心理社会的、文化的側面に着目して女性の生涯にわたる健康支援について学ぶ。
また性と生殖のメカニズムとその意義および女性の各ライフステージ（思春期・成熟期・更年期・老年期）における健康の特徴について学び、健康支援に関する看護方法について考察する。現代社会における女性の多様なライフスタイルや家族のあり方から派生する健康課題や、健康課題を持つ女性とその家族への看護支援について多角的な視点でとらえられるように学修する。

到達目標

1. 母性機能の発達、母性看護の役割と課題について説明できる
2. リプロダクティブ・ヘルス／ライツおよびウィメンズヘルスにおける主要概念について説明できる
3. 女性の身体的、心理社会的、文化的側面を考慮し，女性の生涯を通した健康支援について考えを述べることができる
4. 女性の各ライフステージ（思春期・成熟期・更年期・老年期）における健康課題とその看護について説明できる
5. 母子保健統計から見た母子の健康問題、課題について説明できる

事前学習・事後学習

事前学習：各課題について調べて授業に参加する
事後学習：テーマに沿って復習する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	母性看護の概念・変遷 性差医療の概念・変遷 女性のライフサイクルと生き方	授業ガイダンス 母性とは、母性看護とは、母性看護の変遷、母性機能の発達 性差に基づく医療の概念と変遷 女性のライフサイクルと生き方	専任教員
2	女性の生涯にわたる健康における主要概念	ウィメンズヘルス、 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、環境、グローバリゼーション、ヘルスプロモーション、自己決定を支える支援、国内外における女性の健康課題	専任教員
3	母性保健統計	母子保健統計にみる日本の母子保健の現状と課題、海外の母子保健統計の動向と課題	専任教員
4	女性の健康に関する社会保障制度 母子の健康に関する法律・施策	女性とその家族を取り巻く社会環境における現状と課題、女性・母子に関する法律と施策（母子保健法、母体保護法、男女雇用機会均等法、育児介護休業法 ）	専任教員
5	思春期・成熟期の女性の健康と性	生殖機能の発達、ウィメンズヘルスの概念 母性の発達・母子相互作用・母親役割、受胎調節と家族計画 デートDV／ドメスティック・バイオレンス、望まない妊娠、妊娠のコントロール	専任教員
6	成人期における女性・家族の健康課題と看護	生殖器に関する疾患、性暴力、医療現場でおきる性の問題	専任教員
7	更年期・老年期の女性の健康と性	身体的・精神的・社会的特徴、更年期・老年期における女性の健康問題と看護 更年期障害・下部尿路機能障害・骨粗しょう症・脂質異常症・うつ病・萎縮性膣炎	専任教員
8	まとめ	授業のまとめ	専任教員

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座　専門分野　母性看護学[1]　母性看護学概論　（医学書院） 看護実践のための根拠がわかる　母性看護技術　（メヂカルフレンド社）
参考図書等	系統看護学講座　専門分野　母性看護学[2]　母性看護学各論　（医学書院）
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
妊娠・分娩の看護	講義	1単位	30時間	2年後期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

家族看護論、母性看護学概論の学修を踏まえて、マタニティサイクルの女性の健康を促すために必要な看護とその方法を理解する。さらに、ハイリスク妊娠、異常妊娠などの状態にある対象のニーズを理解するとともにその対象の看護及び家族に対する看護について学修する。女性とその家族の発達過程・健康レベルに基づき、セルフケア能力および健康の質(QOL)を高めるウエルネス型ケアについて考察する。

到達目標

1. 妊娠分娩の正常と異常の病態・症状・検査の理解ができる。
2. 妊娠分娩期の看護が理解できる。
3. 妊娠期、分娩期の対象の心身の変化について理解できる。

事前学習・事後学習

事前学習:該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習:当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	母性の発揮を促す看護	授業ガイダンス　遺伝相談・不妊治療・不妊夫婦の支援	専任教員
2	妊娠期の看護①	妊娠の生理・胎児の発育とその生理	専任教員
3	妊娠期の看護①	妊娠期の心理・社会的特徴・順調な妊娠経過のための看護	専任教員
4	妊娠期の看護①	妊娠中のマイナートラブル・妊娠期の異常(ハイリスク妊娠)	専任教員
5	妊娠期の異常と看護①	妊娠疾患(妊娠高血圧症候群・血液型不適合・母子の感染症)	専任教員
6	妊娠期の異常と看護①	妊娠持続期間の異常と看護	専任教員
7	分娩期の看護①	分娩の生理・分娩の3要素	専任教員
8	分娩期の看護①	分娩の機序・分娩の経過・分娩期の心理・社会的変化	専任教員
9	分娩期の看護①	順調な分娩経過のための看護(安全安楽な分娩、基本的ニードに関する看護)	専任教員
10	分娩期の看護①	分娩期の看護の実際	専任教員
11	分娩期の異常と看護①	産道の異常、娩出力の異常、胎児の異常による分娩障害	専任教員
12	分娩期の異常と看護①	胎児付属物の異常、卵膜の異常、胎児機能不全	専任教員
13	分娩期の異常と看護①	分娩時の損傷、分娩第3期および分娩直後の異常、分娩時異常出血	専任教員
14	分娩期の異常と看護①	産科処置と産科手術・帝非常勤講師切開分娩・異常分娩時の産婦の看護	専任教員
15	まとめ	授業のまとめ	専任教員

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座　専門分野　母性看護学[2]　母性看護学各論　(医学書院) 看護実践のための根拠がわかる　母性看護技術　(メヂカルフレンド社)
参考図書等	マタニティ診断ガイドブック　(医学書院)
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
産褥・新生児期の看護	講義 演習	1単位	30時間	2年後期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

産褥期の身体的変化や新しい家族を迎えることで生じる心理的変化、社会的役割の変化、健康課題について学び、母性看護の対象がセルフケア能力を高めることのできる看護について考える。また、新生児の生理やヘルスアセスメントを理解し、新生児における看護を学ぶ。

到達目標

1. 産褥期における生理的変化および健康課題と看護が説明できる。
2. 新生児期における生理的変化と看護が説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎			

回数	単元	内容	担当教員
1	ガイダンス 産褥期における看護① ～産褥過程①～	科目ガイダンス 産褥期の身体的変化 産褥期の心理・社会的変化	専任教員
2	産褥期における看護② ～産褥過程②～	産褥期の心理・社会的変化	専任教員
3	産褥期における看護③ ～褥婦のｱｾｽﾒﾝﾄ～	産褥経過の診断 産褥の健康状態のｱｾｽﾒﾝﾄ	専任教員
4	産褥期における看護④ ～褥婦と家族の看護～	身体機能の回復および新構成変化への看護 児との関係確立への看護 育児にかかわる看護 家族関係再構築への看護	専任教員
5	産褥期における看護⑤ ～施設退院後の看護～	産後の生活調整 育児不安 産後の健康診査と子育て支援 職場復帰	専任教員
6	産褥期における看護⑥ ～産褥期の異常と看護～	子宮復古不全・産後精神障害・産褥熱・排尿障害・尿路感染、乳腺炎、帝非常勤講師切開術	専任教員
7	産褥期における看護技術	子宮復古のケア・授乳・抱き方	専任教員
8	新生児期における看護① ～新生児の生理～	新生児とは 新生児の機能(子宮外適応現象・呼吸・循環・体温)	専任教員
9	新生児期における看護② ～新生児の生理～	新生児の機能(消化と吸収・ビリルビン代謝と生理的黄疸・腎機能・免疫・皮膚・反射)	専任教員
10	新生児期における看護③ ～新生児のｱｾｽﾒﾝﾄ～	新生児の診断 新生児の健康状態のｱｾｽﾒﾝﾄ	専任教員
11	新生児期における看護④ ～新生児の看護～	出生直前の看護 出生直後から退院時までの看護 生後1ヶ月健診に向けた退院時の看護	専任教員
12	新生児期における看護⑤ ～新生児の異常と看護～	新生児仮死・分娩外傷・低出生体重児・高ビリルビン血症・ビタミンK欠乏性出血	専任教員
13	新生児期における看護技術①	新生児のフィジカルアセスメント、 成熟度の観察	専任教員
14	新生児期における看護技術②	沐浴・おむつ交換・更衣	専任教員
15	まとめ	まとめ	専任教員

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座　専門分野　母性看護学[2]　母性看護学各論　（医学書院） 看護実践のための根拠がわかる　母性看護技術　（メヂカルフレンド社）
参考図書等	マタニティ診断ガイドブック　（医学書院）
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
母性看護学演習	講義 演習	1単位	30時間	2年後期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

正常経過をたどる妊娠期・産褥期の看護過程を通し、マタニティサイクルにある母子と家族の健康課題を捉え、育児に向けセルフケア能力を高められるような看護を学ぶ。また、新生児期にみられる健康問題、子どもを産み育てるにあたり生じる問題など特別なニードのある母子の看護および周産期医療のシステムについて学ぶ。

到達目標

1. 妊娠期・産褥期・新生児期の看護過程が展開できる。
2. 遺伝と不妊における健康課題について、治療および看護が説明できる。
3. 周産期医療システムと母子保健施策について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎			

回数	単元	内容	担当教員
1	ガイダンス 母性看護における看護過程	科目ガイダンス 母性看護学における看護過程の特徴 ヘルスプロモーション型看護診断	専任教員
2	アセスメントとマタニティ診断	マタニティ診断の特徴	専任教員
3	妊娠期の看護過程①	妊娠期のマタニティ診断に必要な情報収集の支店 妊娠期のアセスメント（経過診断）	専任教員
4	妊娠期の看護過程②	妊娠期のアセスメント（健康生活診断）	専任教員
5	妊娠期の看護過程③	妊娠期の看護計画	専任教員
6	妊娠期の看護過程④	アセスメント、看護計画に基づくロールプレイング	専任教員
7	産褥期の看護過程①	産褥期のアセスメント	専任教員
8	産褥期の看護過程②	産褥期の看護計画	専任教員
9	産褥期の看護過程③	アセスメント、看護計画に基づくロールプレイング	専任教員
10	新生児期の看護過程	新生児期のアセスメント	専任教員
11	健康教育演習①	集団指導・個人指導の特徴 健康教育案作成	専任教員
12	健康教育演習②	健康教育実施・評価	専任教員
13	周産期医療システムと 母子保健施策	母体搬送、新生児搬送、チーム医療、周産期医療ネットワーク、母子保健施策	専任教員
14	出生前からの リプロダクティブヘルスケア	遺伝相談、不妊治療と看護	専任教員
15	特別なニードのある 母子への看護	児を亡くした褥婦・家族への看護	専任教員

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座　専門分野　母性看護学[2]　母性看護学各論　（医学書院） 看護実践のための根拠がわかる　母性看護技術　（メヂカルフレンド社）
参考図書等	マタニティ診断ガイドブック　（医学書院）
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
精神看護学概論	講義 演習	1単位	15時間	2年前期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

精神の健康（メンタルヘルス）の概念や心の発達と社会生活における危機的状況について学修し、精神的健康の保持増進と精神障害を持つ人々の歴史や社会的環境について学ぶ。また、こころの動き（心理学的側面）、心と身体との関連性（生物学的側面）、人々とのつながりの有り様（社会学的側面）を基盤とした精神看護の基本的な機能とケアの原則について理解することで、対象の健康の保持・増進に寄与できるように学修する。

到達目標

1. 精神の健康と機能および危機的状況を理解し、看護のかかわりを説明できる。
2. 精神看護の対象とその看護について説明できる。
3. 精神保健医療福祉の歴史から倫理、権利擁護、法律の変遷と看護について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：事前課題は必ず学修して提出する
事後学習：講義後は、事後学習に取り組み、指定する日時に提出する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			◎		○	

回数	単元	内容	担当教員
1	オリエンテーション 精神（こころ）の健康①	マインドフルネスの説明 精神の健康、精神保健の考え方、脳とこころ	専任教員
2	精神（こころ）の健康②	人間生活と精神機能、身体の健康と精神の健康の関係	専任教員
3	危機的状況と看護の関わり	発達的危機、状況的危機	専任教員
4	精神看護のケアの基本①	精神看護学の目的、精神看護学の機能、精神看護学を支える技術	専任教員
5	精神看護のケアの基本②	精神看護倫理、家族への対応、心理教育、リエゾン看護	専任教員
6	精神保健医療福祉の歴史と看護①	精神障害者の処遇と歴史	専任教員
7	精神保健医療福祉の歴史と看護②	精神保健福祉と関連法規	専任教員
8	まとめ	振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　精神看護学[1]　精神看護の基礎　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　精神看護学[2]　精神看護の展開　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
精神の健康障害と看護	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

近年の日本における精神科医療及び精神保健福祉サービスは急激に変化している。地域のおいてもその構築が求められるようになってきている。本科目では心の健康障害を取り上げ（統合失調症、気分障害、アルコール依存症、パーソナリティ障害）症状や治療について学び、さらに精神保健医療福祉制度や法規、メンタルヘルスについて理解をふかめ、よりよい精神の健康について学修する。

到達目標

1. 統合失調症の症状と経過及び治療について説明できる。
2. 気分障害の症状と経過及び治療について説明できる。
3. アルコールや薬物依存症の症状と経過及び治療について説明できる。
4. 学校・職場のメンタルヘルスについて自分の意見を述べることができる。
5. 看護師のメンタルヘルスの症状と経過及び治療について説明できる。
6. 精神看護における倫理について自分の意見を述べることができる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○			○	

回数	単元	内容	担当教員
1	精神障害者の理解と現状	精神障害とは、精神科治療の基本	小西
2	精神疾患① 統合失調症	統合失調症の症状と治療 統合失調症の発病と回復のプロセス（急性期、回復期、慢性期）	小西
3	精神疾患② 気分障害	気分障害の症状と治療 軽躁、躁状態、うつと大うつ状態	小西
4	精神疾患③ 物質関連障害	アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル依存の症状、治療	小西
5	精神疾患④ パーソナリティ障害と摂食障害	パーソナリティ障害の症状、治療 摂食障害の症状、治療	小西
6	精神疾患⑤ その他の障害	不安障害、解離性障害、心身症等の症状と治療	小西
7	精神疾患⑥ 小児の精神障害	アスペルガー症候群の症状と治療 知的障害の症状と治療	小西
8	精神保健医療福祉の歴史と看護①	精神障碍者の処遇と歴史	非常勤講師
9	精神保健医療福祉の歴史と看護②	精神保健福祉と関連法規	非常勤講師
10	地域精神保健活動①	学校・職場におけるメンタルヘルス	非常勤講師
11	地域精神保健活動②	地域におけるメンタルヘルス、ストレングスとリカバリーの概念 多様な地域保健活動ACT	非常勤講師
12	精神看護の安全と倫理①	精神科におけるリスクマネジメント	非常勤講師
13	精神看護の安全と倫理②	暴力の予防（CVPPP）	非常勤講師
14	看護師のメンタルヘルス	感情労働、転移、逆転移	非常勤講師
15	まとめ	まとめ　振り返り	非常勤講師

評価	客観式試験（非常勤講師：50点、小西：50点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　精神看護学［1］　精神看護の基礎　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　精神看護学［2］　精神看護の展開　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
精神看護学援助論	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

心に障害がある人に対応するためには対象との人間関係が重要である。そのためには自己のあり方や傾向を知る必要があります。プロセスレコードを用いて、自己の振り返りができるように学ぶ。さらに我が国における精神障害者の置かれている状況を学び、障害を持つ対象の社会復帰について、施設内リハビリテーションやコミュニティにおけるリハビリテーションについても学修する。

到達目標

1. 患者－看護師関係について自分の意見を述べることができる。
2. プロセスレコードを通して自己理解、他者理解の必要性について説明できる。
3. 精神疾患に関する法的側面を理解できる。
4. 精神科におけるリハビリテーションの概念と地域における資源の活用について考えることができる。
5. 精神障害を持つ人や家族の病への向き合い方を理解する方法や支援を考えることができる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○		○	

回数	単元	内容	担当教員
1	患者ー看護師関係の発展	ペプロウ、トラベルビー理論	専任教員
2	プロセスレコード①	プロセスレコードとは、場面の再構成	専任教員
3	プロセスレコード②	場面の振り返り	専任教員
4	精神障害と法制度	精神科領域で必要な法律と制度	専任教員
5	精神科における薬物療法	薬物療法と看護	専任教員
6	家族への対応と心理教育	システムとしての家族、家族と看護	専任教員
7	精神科におけるリスクマネジメント①	精神科におけるリスクマネジメント 行動制限における看護とマネジメント	専任教員
8	精神科におけるリスクマネジメント②	行動制限における看護とマネジメント 暴力への対応、隔離と拘束	専任教員
9	精神科リハビリテーション①	施設内リハビリテーション（作業療法、デイケアなど）	専任教員
10	精神科リハビリテーション②	コミュニティにおけるリハビリテーション（訪問看護、ACTの機能と役割）	専任教員
11	社会的問題①	事例をもとに考える（バスジャック）	専任教員
12	社会的問題②	心の障害と近隣のもめごとについて考える	専任教員
13	精神障害者の理解①	当事者からの話を聞く 精神病の体験について	専任教員
14	精神障害者の理解②	当事者からの話を聞く 精神病の体験について	専任教員
15	まとめ	まとめ　振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　精神看護学[1]　精神看護の基礎　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　精神看護学[2]　精神看護の展開　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
精神看護学演習	講義 演習	1単位	30時間	2年後期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

治療の場における看護を具体的に学ぶ。発達理論に基づいた対象理解や薬物療法時の観察や留意点、治療的コミュニケーションの基本を通して受容や傾聴などの基本技術を学ぶ。近年は一般診療科で治療を受ける例も増加しており、あらゆる領域で精神看護の知識や技術が求められるようになっている。精神症状や健康が日常生活に及ぼす影響と治療との関連性に着目しながらセルフケアを高めるための看護実践を学ぶ

到達目標

1. 発達理論やBio-Psycho-Socialモデルから対象を理解できる
2. オレムのセルフケア理論の基礎知識を述べることができる。
3. 精神疾患をもつ対象者の看護過程の展開を通して、介入の必要や協働的なかかわりを理解できる。
4. 対象者に合わせた治療的コミュニケーションの理論と実際を理解することができる。
5. 演習を通して認知行動療法などの精神科看護の効果的な介入方法を理解することができる。
6. 地域で生活する対象者へのストレングスモデルを用いた看護介入を理解できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	○			

回数	単元	内容	担当教員
1	オリエンテーション 対象理解①	授業ガイダンス 心理社会的視点からみた対象理解（環境、集団、家族、治療的関係の理解）	専任教員
2	対象理解②	発達理論に基づいた対象理解（エリクソン）	専任教員
3	治療と看護	薬物療法の理解と看護 電気けいれん療法の理解と看護	専任教員
4	治療的コミュニケーションの基本①	基本的な関わりの技法（受容、傾聴、共感、非言語的コミュニケーション）	専任教員
5	治療的コミュニケーションの基本②	アドバンスなコミュニケーション技法（ソクラテス式質問技法など）	専任教員
6	精神科看護の具体的スキル①	リラクセーション法（呼吸法/自律訓練法/マッサージ）	専任教員
7	精神科看護の具体的スキル②	認知行動療法の基礎と活用	専任教員
8	精神科看護の具体的スキル③	集団療法、SSTの理論と実際	専任教員
9	精神疾患をもつ対象者の看護過程①	うつ病事例のアセスメント	専任教員
10	精神疾患をもつ対象者の看護過程②	うつ病事例の看護介入	専任教員
11	精神疾患をもつ対象者の看護過程③	統合失調者事例のアセスメント	専任教員
12	精神疾患をもつ対象者の看護過程④	統合失調者事例の看護介入	専任教員
13	プロセスレコードの意義と活用	プロセスレコードの作成と活用法の演習	専任教員
14	地域で生活する対象者への看護	ストレングスモデルを用いた地域に生活する精神障害者の理解と介入	専任教員
15	まとめ	まとめ　振り返り	専任教員

評価	課題レポート（50点）、客観式試験（50点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　精神看護学[1]　精神看護の基礎　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　精神看護学[2]　精神看護の展開　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
専門職連携の基礎	講義 演習	1単位	15時間	1年後期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

保健・医療・福祉の統合が進む社会状況にあって、その場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。全人的支援を行うには、関連職種連携が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性やチーム医療やチームケアについて学び、関連職種との協働に必要なコミュニケーション能力を身につけられるように、専門職連携についての基本的な考え方を学修する。

到達目標

1. チーム医療・チームケアの必要性や意義を説明できる
2. チームビルディングの理論と実際について説明できる
3. 各医療専門職の種類と機能について説明できる
4. グループワークを通してメンバーとコミュニケーションをとり自己の意見を表現できる

事前学習・事後学習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
事後学習：該当テーマについて振り返りを行い、資料等調べて学修する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
					◎	○

回数	単元	内容	担当教員
1	ガイダンス IPEの基礎 国際疾病分類の理念	なぜ関連職種連携教育を学ばなければならないか 専門職種間連携教育（IPE）の展開のための基礎知識 国際疾病分類（WHO　ICF）の理念	専任教員
2	チーム医療とチーム ビルディング①	チーム医療のあり方、メンバーシップとは、チームビルディングの 理論と実際 チームを作り課題に取り組む（シャッフル新聞）	専任教員
3	チーム医療とチーム ビルディング②	新聞タワーの取り組みについてGW、発表 課題に対する評価（計画性　協調性　参加の状況　リーダーシップ　メンバーシップ等）	専任教員
4	医療専門職の種類と機能①	医療と福祉の接点 医師,医事課、臨床工学士の役割・教育・機能	専任教員
5	医療専門職の種類と機能②	薬剤師、検査技師、管理栄養師の役割・教育・機能	専任教員
6	医療専門職の種類と機能③	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の役割・教育・機能	専任教員
7	患者体験を語る	入院の体験談　ふれあい体験学習（可能なら）　GW	専任教員
8	まとめ	まとめ	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践〔1〕　看護管理　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
専門職連携の構築	講義 演習	1単位	15時間	2年後期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院等）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

既習の専門職連携の基礎と関連させながら、専門職が共同とケアの質を改善するための連携について学ぶ。地域共生社会の実現のために、多様な場で暮らす、様々なライフステージ・健康レベルにある対象の健康や生活を守る保健・医療・福祉の提供にむけて、お互いの職種の特性を活かしながら、チーム医療・ケアの理念と実践の方法を理解し、患者・利用者中心の専門的サービスを提供する技能を修得する。具体的には、事例を通して、チームメンバーと協働し多職種のアプローチを尊重しながら、自職種としての意見やその根拠を明確に述べるとともに、各々の役割や責任についても学修する。

到達目標

1. ICFの概念を活用して事例の課題を抽出することができる
2. 現実的・実践的なケア計画が立案できる
3. チームにおける自らの役割を発見・理解し、メンバーシップを発揮できる
4. 他職種の意見を尊重しながら、自職種の意見を根拠に基づいて述べることができる

事前学習・事後学習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
事後学習：該当テーマについて振り返りを行い、資料等調べて学習する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		○	◎	

回数	単元	内容	担当教員
1	授業ガイダンス	授業の概要　ICF（国際生活機能分類）について　ワークの進め方	専任教員
2	ICFに基づく課題の明確化 （アセスメント）	事例紹介、事例についての検討	専任教員
3	計画立案	事例検討（目標設定、ケア計画作成）	専任教員
4	評価①	各グループの発表	専任教員
5	評価②	各グループの発表	専任教員
6	評価③	各グループの発表	専任教員
7	チーム医療における他職種の実際	退院時カンファレンス（退院支援看護師、ケアマネジャーの視点）	専任教員
8	まとめ	チームマネジメントを高める技術　授業の振り返り	専任教員

評価	プレゼンテーション（40点）、課題レポート（60点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践[1]　看護管理　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
リスクマネージメント論	講義 演習	1単位	15時間	2年後期	非常勤講師・専任教員
実務経験のある教員による科目					

授業概要

看護者は最も患者に近いところにいて治療に伴う処置や看護を実施することが多くあり、医療事故の当事者になる可能性が高い職業である。安全への配慮を欠くと、患者の健康を損なうだけでなく、看護職としても責務を問われることになる。看護職者は医療専門職として安全で質の高い医療を提供する責務を負っている。そのためにも医療安全に関する最近の動向を知り、医療安全に対する取り組みやその対策について知識を身につけ、安全に看護が実践できるように学修する。

到達目標

1. 医療安全にかかわる最近の動向を説明できる
2. 国の医療安全への取り組みについて説明できる
3. 医療安全のための対策を説明できる

事前学習・事後学習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
					◎	

回数	単元	内容	担当教員
1	なぜ医療安全を学ぶのか	授業ガイダンス 医療安全にかかわる動向、医療安全の基礎知識	専任教員
2	医療安全への取り組み	国の医療安全への取り組み 医療事故の定義、報告制度、医療の質の評価	専任教員
3	事故発生のメカニズム	ヒューマンエラー ヒューマンエラー分析方法	専任教員
4	組織としての医療安全対策	医療機関における医療安全の取り組み、チーム医療と医療安全 医療安全管理者の役割	非常勤講師
5	看護における医療事故と安全対策	医療事故の種類　インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告 患者の誤認防止の策の実施　事例分析の実際	専任教員
6	リスクと対策 患者・家族との協同	リスク感性とクリティカルシンキング 患者・家族との協同	専任教員
7	医療事故の対応	事故発生時の初期対応の考え方と方法、紛争下の防止対策	専任教員
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践［2］　医療安全　（医学書院） 多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル　（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
災害看護学	講義 演習	1単位	15時間	2年後期	専任教員・非常勤講師
実務経験のある教員による科目					

授業概要

本科目では災害が人々の生活や健康に及ぼす影響を理解するとともに、個人・家族・地域社会の生活の視点をベースにした災害支援活動を行うための看護の基礎知識を学び、災害急性期に必要な技術(トリアージ、患者搬送、止血、包帯法)について修得する。さらに、災害への専門職としての心身両面の備えと発災時の対応、災害による被害を最小限にとどめるため、災害各サイクルに看護職が果たすべき役割と機能について学ぶ。

到達目標

1. 災害の定義、災害の種類、災害サイクル、災害に対する社会の仕組みについて説明できる
2. 災害発生期における災害看護活動、看護体制づくりを理解できる
3. 災害時のトリアージの基本が実施できる
4. 災害サイクル各期の被災者のニーズと看護師の役割や実践活動について理解を深め、自己の考えを述べることができる
5. 災害が人々の健康に及ぼす影響と必要な看護ケアについて説明できる
6. 被災者の心理、支援者の心理について説明できる

事前学習・事後学習

事前学習:各課題について調べて授業に参加する
事後学習:テーマに沿って復習する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		◎		

回数	単元	内容	担当教員
1	災害について	授業ガイダンス 災害看護の歴史、災害看護の定義、災害の種類と災害種類別の健康障害の特徴	専任教員
2	災害サイクルに応じた災害看護の実際と課題	災害サイクルについて、災害サイクルと活動現場、被災者特性に応じた看護の実際 災害サイクル別の看護活動の特徴 避難所、応急仮設住宅、災害公営住宅での看護活動の特徴 パブリックヘルスの視点からの活動	専任教員
3	災害時における医療活動の実際	DMAT活動を通じた医療救護班の活動と連携	非常勤講師
4	災害に必要なスキル演習①	トリアージ(START法):トリアージの実際 徒手搬送、担架搬送 止血・包帯法	非常勤講師
5	災害に必要なスキル演習②	トリアージ(START法):トリアージの実際 徒手搬送、担架搬送 止血・包帯法	非常勤講師
6	災害時要配慮者へのケアについて	災害時に子どもに起こること、災害時に妊産婦に起こること、身体や精神に障害がある人、災害時に慢性疾患患者に起こること、災害時に高齢者に起こること 災害時に外国人に起こること	専任教員
7	災害とこころのケアについて	災害がもたらす精神的影響 こころのケアとは 被災者のこころのケア 支援者のこころのケア	専任教員
8	まとめ	授業の振り返り	専任教員

評価	客観式試験(専任教員:100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 (医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
国際看護学	講義 演習	1単位	15時間	2年後期	専任教員
実務経験のある教員による科目	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえた臨床に即した授業・演習を行う				

授業概要

グローバル化が進んだ現代では、地球上のあらゆる人々の健康問題が我々にも直接影響してくる。世界でどのような健康問題が起こっていて、人々は何に苦しんでいるのか知り、それに対して私たちに何ができるのか考えることは大切である。本科目では国際看護の概念、看護における文化、世界の健康問題、国際協力の仕組みや、国際協力における看護活動を学び、諸外国の保健医療福祉の課題を学び、国際看護に対する理解を深める。

到達目標

1. 国際看護の概念と対象を説明できる。
2. 文化を考慮した看護について自分の意見を述べることができる。
3. 世界の健康問題を説明できる。
4. 国際協力の仕組みと実際を理解できる。

事前学習・事後学習

事前学習：テキスト「国際看護学」の該当箇所を読んで概要を把握しておく
事後学習：事前学習の要点についての振り返りを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
				◎	○	

回数	単元	内容	担当教員
1	国際看護の概念と対象	授業ガイダンス 国際看護とは、国際看護の仕組み、国際看護の対象	専任教員
2	看護における文化	異文化理解と看護、文化ケアアプローチ、多文化対応能力	専任教員
3	世界の健康問題	人口、各国の保健指標、感染症、温暖化、紛争	専任教員
4	国際看護の実際①	国際看護の実際と課題①、JICA組織について	専任教員
5	国際看護の実際②	国際看護の実際と課題②、レポート課題「JICA九州センターでの学び」	専任教員
6	国際看護の実際③	国際看護の実際まとめ発表	専任教員
7	諸外国の保健医療福祉の課題①	アメリカ、ヨーロッパ（イギリス、フランス）、アジア（中国、韓国、フィリピン）の諸外国の 医療福祉の現状と課題	専任教員
8	諸外国の保健医療福祉の課題②	諸外国の保健医療福祉の現状と課題についてまとめ発表 レポート課題「諸外国の保健医療福祉の現状と課題」	専任教員

評価	課題レポート（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践［3］　災害看護学・国際看護学　（医学書院）
参考図書等	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［1］　看護学概論　（医学書院）
留意事項	